

環境レポート2002

日本ハムグループ環境への取り組みのご報告



本「環境レポート2002」は、古紙含有率100%の再生紙を使っています。
インキは、石油資源の保護、大気汚染の原因となるVOC（揮発性有機化合物）の発生を減らすために、大豆油インキを使用しています。
大豆インキは生分解性や脱墨性および印刷物のリサイクル性にも優れています。



「食べる喜び」を基本のテーマとし、 時代を画する文化を創造し、社会に貢献する。

地球に暮らす全ての人々にとって、環境問題は重大な関心事となっています。私たちが将来に渡って、継続的に質の高い暮らしを維持していくためには、環境保全活動への取り組みは大きな意味があります。私たちはそれぞれの事業の中で、一人一人が担っている仕事と環境との関わりを考えながら、環境への負担軽減を継続して行ってまいります。

日本ハムグループは、コンプライアンス（倫理、法令遵守）に基づく企業風土を確立し、「顧客満足」を基本とする企業活動により、社会やお客様から信頼され、真に必要とされるよう努力いたします。

企業市民として、私たちは「食」を扱う立場に立ちその使命を担います。生活者の立場に立ち、信頼できる製品の提供、健康づくりへのお手伝い、畜産資源の有効利用の技術開発、エネルギーや資源の有効活用の面から、生活者の暮らしの質をより高めることに役立っていければと考えています。

私たちが目指す「幸せな食創り」の実現のためには、何よりも従業員一人一人の意識改革と持続的な努力が必要です。遵法意識の徹底、環境問題への意識の高揚と、それに基づいた行動が何より大切だと考えています。

本環境レポートは、昨年の初回発行に引き続き、第2回目のものとなります。

今回は環境への取り組みに加え、安全・安心な商品の提供や社会貢献活動など、^{*}サステナビリティ（持続可能性）的要素も取り入れました。

不十分な面も多々ありますが、今後も、さらなる充実を図っていきますので、ぜひご一読の上、日本ハムグループの環境保全活動のあらましと今後の方向性をご理解いただければ幸いと存じます。

日本ハム株式会社
代表取締役社長

ふじ い よし きよ
藤井 良清



CONTENTS

「食べる喜び」を基本のテーマとし、時代を画する文化を創造し、社会に貢献する。 …	1
社長メッセージ …	2
日本ハムグループの概要 …	3
基本方針 …	4
日本ハムグループのビジョン …	5
推進組織体制 …	6
環境目標 …	7
事業活動と環境への影響 …	9
商品企画・開発時の環境対策 …	11
ファーム・処理工場での取り組み …	17
ファームでのゼロ・エミッションへの取り組み …	19
加工工場での環境活動への取り組み …	21
その他の環境対策 …	23
日本ハムグループ環境レポート2002活動MAP …	26
環境活動に関するデータ …	27
コミュニケーション活動ー地域貢献 …	33
コミュニケーション活動ースポーツ振興 …	35
環境年表ーアンケート …	37
環境レポート2001について …	38
表紙絵／くぼ りえ さん（プロップステーション） （バーチャル工場のリーダ）	

日本ハム環境レポート2002について

・対象範囲

この環境レポートは、環境省が2001年に発行した『環境報告書ガイドライン』に沿って、日本ハム(株)国内事業所および国内関係会社（以下日本ハムグループと表記）の事業活動を対象としています。

・対象期間

データ部分に関しては、2001年4月1日～2002年3月31日の1年間の事業活動をまとめています。また、経営方針、コミュニケーション活動などについては、一部最近の内容を掲載しています。

・対象分野

主に日本ハムグループの環境活動を中心に、商品開発、社会貢献活動など社会・経済的な事業活動も掲載しています。（データの対象は27ページ以降に記載しています）

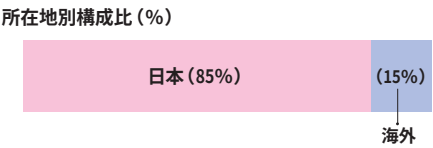
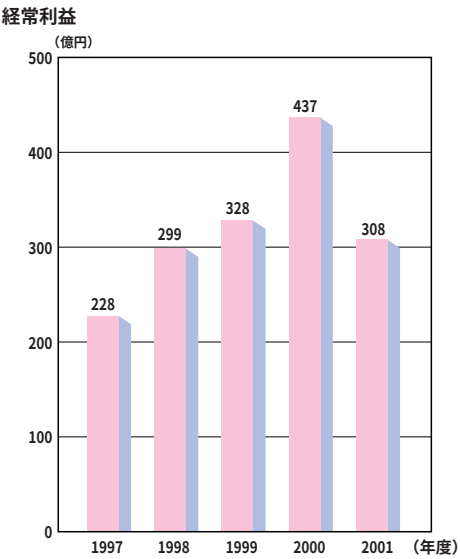
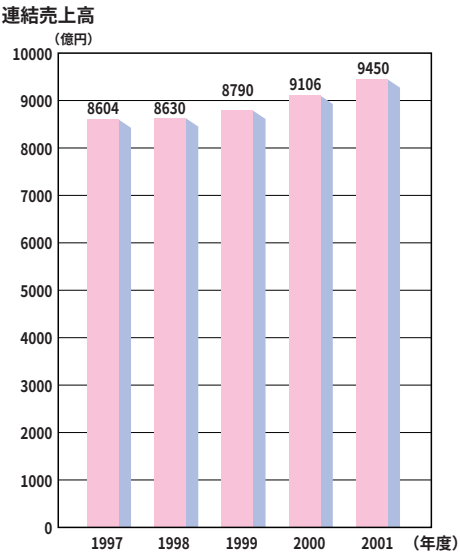
・おことわり

この文書の記載事項については、数量・金額などは概数によるものがあり、また、今後変更される場合もあります。

※サステナビリティ／環境、経済、社会の三要素をバランスよく発展させ、持続可能な地球にしてい「サステナブル・ディベロップメント」の考え方のこと。

会社概要

組織名称	日本ハム株式会社 日本ハムグループ NIPPON MEAT PACKERS INC.
設立	1949年5月30日
本社所在地	大阪府大阪市中央区南本町3-6-14
代表者	代表取締役社長 藤井良清
資本金	241億6,500万円(2001年3月31日現在)
主要国内グループ会社	日本スワイン農場(株)、日本ホワイトファーム(株)、ニッポンフィード(株)、日本フードパッカー(株)、日本ビュアフード(株)、東北日本ハム(株)、静岡日本ハム(株)、長崎日本ハム(株)、日本ハム食品(株)、日本ハム惣菜(株)、(株)鎌倉ハム富岡商会、(株)函館カール・レイモン、(株)ヘルマン、ベルタスフーズ(株)、トーチクハム(株)、日本ハム北部直販(株)等5社、東日本フード(株)など5社、マリンフーズ(株)、日本ルナ(株)、日本ファインフード(株)、日本物流グループ(株)、日本ドライフーズ(株)、ジャパンプード(株)、日本ビジネスソーシング(株)等116社
従業員数	27,000名(2002年3月現在/グループ合計・嘱託・パート含む)



企業理念

- 企業理念
 1. わが社は、「食べる喜び」を基本のテーマとし、時代を画する文化を創造し、社会に貢献する。
 2. わが社は、従業員が真の幸せと生き甲斐を求める場として存在する。
- 経営理念
 1. 高邁な理想をかかげ、その実現への不退転の意志をもって行動する。
 2. 人に学び、人を育て、人によって育てられる。
 3. 時代の要請に応じて時代をつくる。
 4. 品質・サービスを通して、縁を拡げ、縁あるすべての人々に対する責任を果たす。
 5. 高度に機能的な有機体をめざす。

環境憲章

- 環境理念

日本ハムグループは、自然の恵みに感謝し、美しい地球を次世代に残すことは私たちの責任であると考え、企業活動のあらゆる面で継続的に環境保全に取り組みます。
- 行動指針

我々は、環境問題への理解を深め、一人一人の業務において、環境へのやさしさを実践します。

 1. 環境・安全に配慮した商品・サービスの開発に努めます。
 2. 省エネ・省資源・環境負荷低減に努めます。
 3. 推進体制の整備や意識向上をはかり、環境管理システムの充実に努めます。
 4. 法規制の遵守はもとより必要に応じて自主基準を設定し、環境保全水準の向上に努めます。
 5. 環境保護活動を通して、地域社会との協調・融和に努めます。



N I 手帳について
日本ハムグループ従業員は、企業理念、行動指針などがまとめられた「N I 手帳」を常に携帯しています。この中に環境宣言、環境憲章も盛り込まれています。N I とは、「日本ハムアイデンティティ」の頭文字を現します。

日本ハムグループの主要な製品



環境への取り組みは、日本ハムグループの事業を支え、人々の健康に関わる「食」に直結する共有資源を守ること。

私たちの提供する食品は、単なる商品ではなく食卓に楽しみや喜びをもたらしてくれる力があると信じています。健康のための栄養補給とともに、美味しさを共に味わう喜びをも提供していきたい——これが私たちのかけがえのない「幸せな食創り」の基本です。

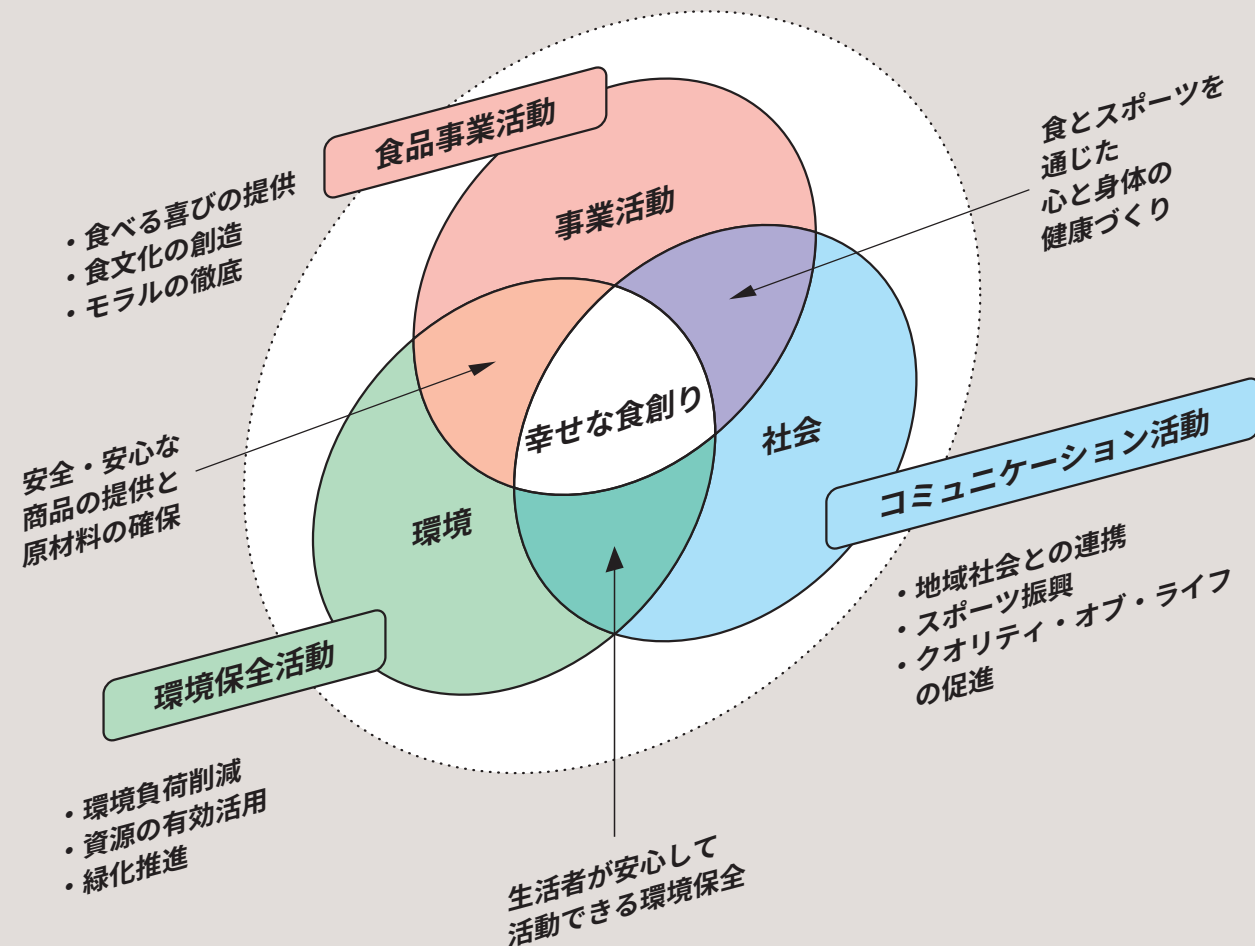
●
スポーツの後の食事はとても美味しいものです。体に必要な栄養の補給でさらなる健康がもたらされ、ますますスポーツが楽しくなります。このような循環が、日々の暮らしの中に楽しさや喜びをもたらす、健全な体と豊かな心を育ててくれ

ます。食の充実だけでなく、スポーツや文化に貢献していくことが、クオリティ・オブ・ライフの向上に役立つものと考えています。

●
私たちの暮らしは地球環境と密接に関わっています。同じように、日本ハムグループの事業も自然環境からもたらされた豊かな資源から成り立っています。人々の健康と私たちの事業を支えている共有資源が自然環境なのです。私たちは「幸せな食創り」の実現のために、多くの方と協力しながら、環境保全活動に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

日本ハムグループの環境保全活動の位置づけ

日本ハムグループの事業活動を支える要素として食とスポーツ、環境を中心に位置づけ、生活者の共感を得られる企業価値の創造を目指しています。



※クオリティ・オブ・ライフ／生活の質、人生・生命の質を重んじる姿勢を表わします。

「幸せな食創り」の実現のために、各組織が連携し、グループ全体で環境保全を推進しています。

● 推進組織

日本ハムグループ全部門によって環境活動が推進されます。環境対策委員会は、全部門の代表者によって組織され、全体の活動に関する方針、重要事項の審議・承認などを行ないます。

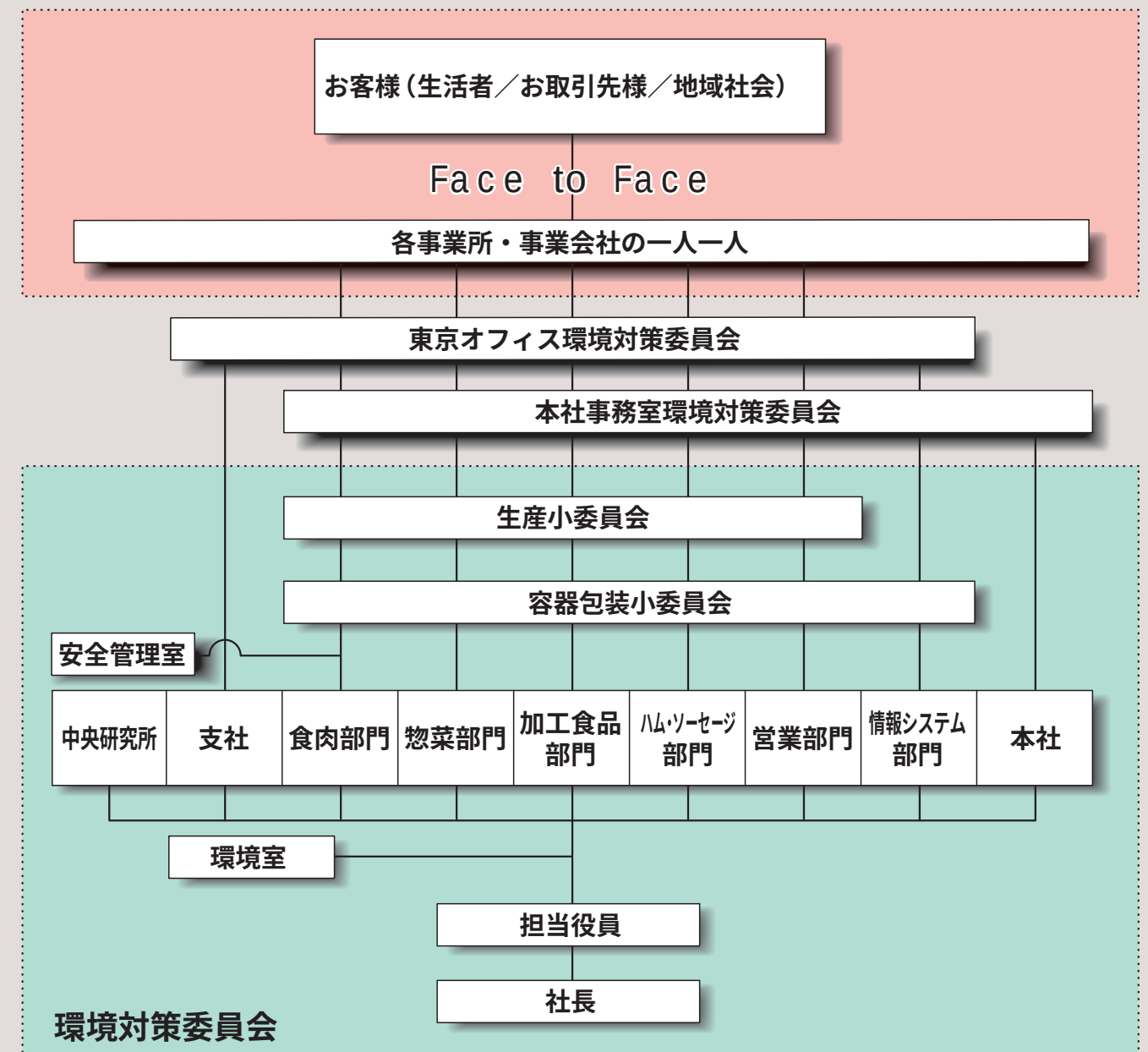
● 環境対策委員会は、容器包装小委員会と生産小委員会の分科会を持ち、より専門性の必要な課題に対しての実務を担います。

● 容器包装小委員会は製品の容器包装に対しての環境対策、生産小委員会は工場等製造事業所の環境対策を扱います。

● 本社、支社にはそれぞれオフィスに関する環境対策を行なうための委員会があり、営業及び各工場など事業所別に環境管理責任者が任命され、環境活動の推進を担っています。

● 加盟団体 日本ハム・ソーセージ工業協同組合、日本食肉加工協会、日本ハンバーグ・ハンバーガー協会、食品産業センター、日本食鳥協会

● 環境関連関係団体 日本容器包装リサイクル協会、プラスチック容器包装リサイクル推進協議会、グリーン購入ネットワーク、日本鳥類保護連盟、日本



環境保全活動の確実な推進のために、
目標を設定し、進捗状況をチェックしています。

日本ハムグループでは、2000年4月にスタートした3カ年の中期経営計画を受けて、環境への取り組みテーマの具体的内容
と年度毎の目標値を明確にした「日本ハムグループ環境マネジメント計画」を作成し、各部門及びグループ各社で実行しています。これまでの環境目標と進捗状況は以下の通りです。

●製造	テーマ・目的	2000年度目標	2000年度結果	評価	2001年度目標	2001年度結果	評価	主な活動内容	2002年度目標	掲載頁
	ISO14001認証取得の拡大	スケジュール決定・開始	8工場の計画確定 (順調に導入)	○	4工場認証取得 (計5工場取得)	4工場認証取得 (計5工場取得)	○	2001年度4工場にて認証取得。その他5工場も2002年度中に取得の見込	5工場認証取得 (計10工場取得)	7－8
	リサイクル率100% (ごみゼロ化)	リサイクル率 77%	77.5%を達成 (1999年度 は70%)	○	リサイクル率 88%	79.4%	△	廃ブラの燃料利用、動物性残渣の肥料化等	リサイクル率 90%達成	9－10
	廃棄物の発生抑制 (1999年比)	廃棄物発生量 88%	53.6%に削減	◎	廃棄物発生量 77% (1999年比)	63.4% (1999年比)	◎	分別回収、リサイクルの推進など	廃棄物発生量 63.4% (1999年比)	22
	排水・減水対策 (製造kg当 1999年比)	排水率 90%	67.8%に削減	◎	排水率 85.5%	70% (製造kg当り 1999年比)	◎	高圧洗浄、水量調節などの対策及び節水教育	排水率70%を維持 (製造kg当り 1999年比)	21
	農場 排水・汚泥堆肥化推進	汚泥処理調査実施	調査完了 (グループ 会社含む)	○	濾過ケーキの 有価資源評価	評価作業未完了	△	成分、性状分析、基礎テスト及び食餌テスト準備	有機性肥料の P R 資料作成	19－20

(注1) 上記目標は、部門毎に設定したテーマ目標の主なもの挙げております。グループ全体での目標ではありませんので、26、27ページの実績値とは一致しません。
(注2) 廃棄物の発生抑制は2000年度結果が目標を大幅に達成し、当初2002年度目標を上回ったため、当初目標値を変更しました。

●販売	環境意識の高揚	販売部、営業所に 環境担当者設置	環境担当者 設置	○	ボランティア参加 10%増	13%増	○	テグスクリーン活動、C C C 活動等への参加	環境マナー 基準作成	25
	廃棄物削減 (販売事業所)	事業所廃棄物 調査	(営業部門の) 調査開始、完了	○	段ボール リサイクル 60%	40.6%	△	販売部別実施状況をシステム にて管理	段ボール リサイクル 60%	12

●管理	オフィスゴミの リサイクルシステム構築	リサイクル率 50%	35%	△	リサイクル率 55%	55.5%	○	リサイクルBOX活用、ごみ 箱探検隊等の活動	リサイクル率 60%	24
	事務用品 グリーン購入の推進	グリーン購入率 50%	39%	△	グリーン購入率 50%	50.8%	○	対象を拡大した為、目標再設 定。ペリネット利用部署の 拡大により推進	グリーン購入率 55%	24

- ISO14001の認証取得状況
日本ハム各工場のISO14001の認証取得は順調に進捗し、2001年度までに下記の5工場で認証取得を取得しました。
- ISO14001の認証取得事業所
1999年取得 小野工場
2001年取得 茨城工場、兵庫工場、和歌山工場、徳島工場
- 2002年ISO14001の認証取得事業所
長崎日本ハム(株)、旭川工場



長崎日本ハム(株)



旭川工場

- 日本ハム7事業所で
ISO14001認証取得。
2002年6月に、旭川工場および長崎日本ハム(株)でISO14001の認証取得をいたしました。長崎日本ハム



長崎日本ハム(株)における審査風景

- (株)はグループ会社として初の取得となります。今後はグループ各社での取得を進めていきます。



日本ハム旭川工場の審査風景

- 環境教育
日本ハムグループでは、従業員の環境意識の向上や理解を図るため、従業員の各階層で行われる研修制度に環境教育を組み込んでいます。また、社内報『新風』社内LANを通じた環境メールマガジンや環境情報紙『環境ニュース』の発行を通じて、グループ内での環境への取り組み、法改正、環境に関する情報などを提供しています。また、2001年度は『環境レポート2001』を従業員全員に配布し、日本ハムグループの環境への取り組み姿勢と活動状況の認知を図りました。また、随時社外の講習に参加して知識の向上に努めています。



「自動車使用管理計画書作成・提出に関する説明会」7月23日(大阪府)

- 環境ニュースを継続発行
日本ハムグループでは、グループ従業員全員に環境に対する情報提供を行なうために、定期的な環境情報紙『環境ニュース』を発行。2001年度も、グループ内での環境への取り組みや、法改正、環境に関する知識の解説などを紙面で紹介しています。



ポスター状の『環境ニュース』

日本ハムグループ独自のバーチャル・インテグレーションシステムが、環境負荷の削減と資源の有効活用を可能にしています。

日本ハムグループの事業活動の大きな特徴は、生産飼育から処理、加工、流通、販売までのすべてのプロセスを、グループ会社が一貫して管理運営する「バーチャル・インテグレーション・システム」にあります。このシステムを早くから確立したことで、健康で安全な家畜の生産管理から、お客様の手に届くまでのすべてのプロセスで品質管理が可能になりました。食品を提供する企業の使命である安全・安心な製品

を提供していくための大きな原動力になっています。さらに、このシステムは、廃棄物の削減や、資源の有効活用、リサイクルの効率化など、環境への影響の面でも多くのメリットを生み出しています。

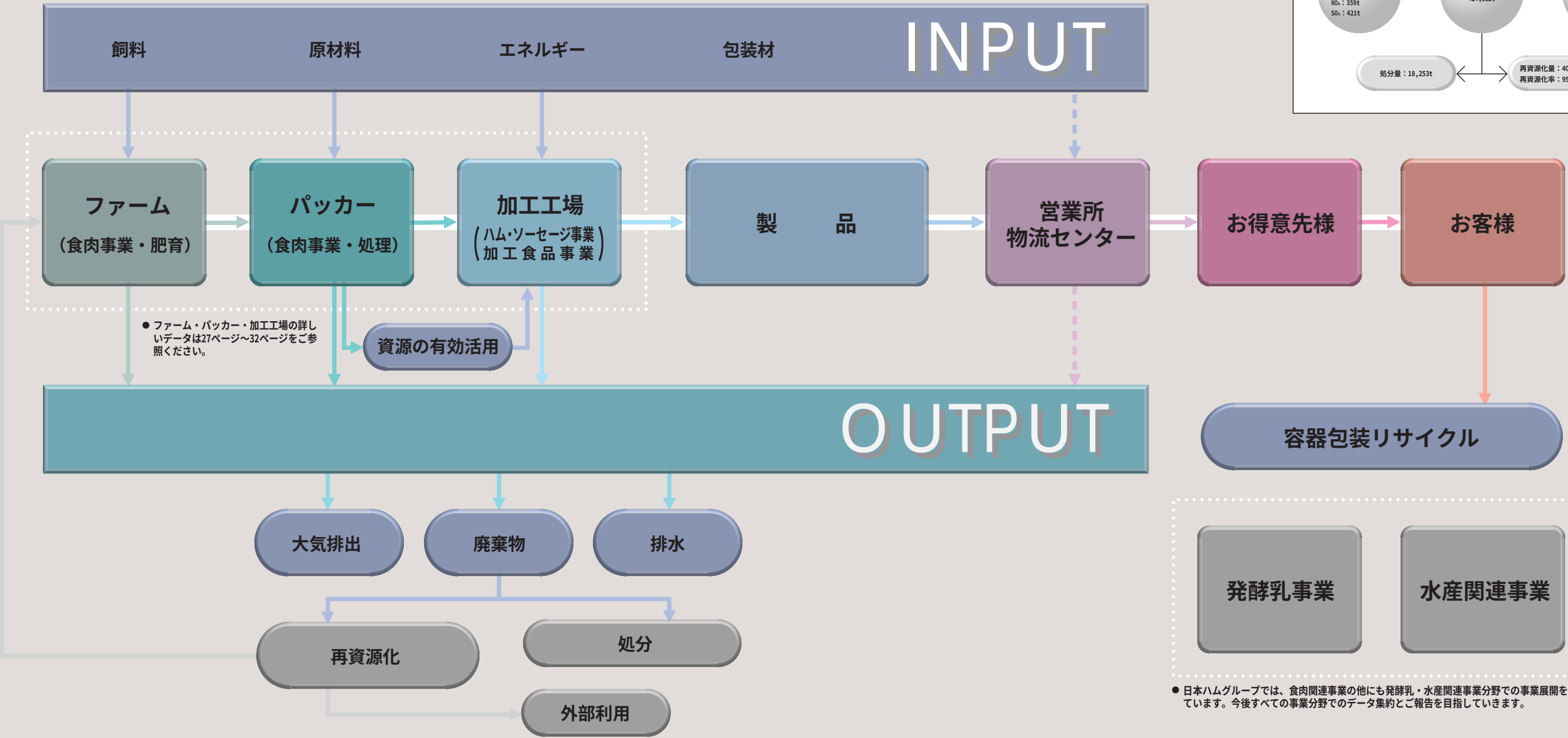
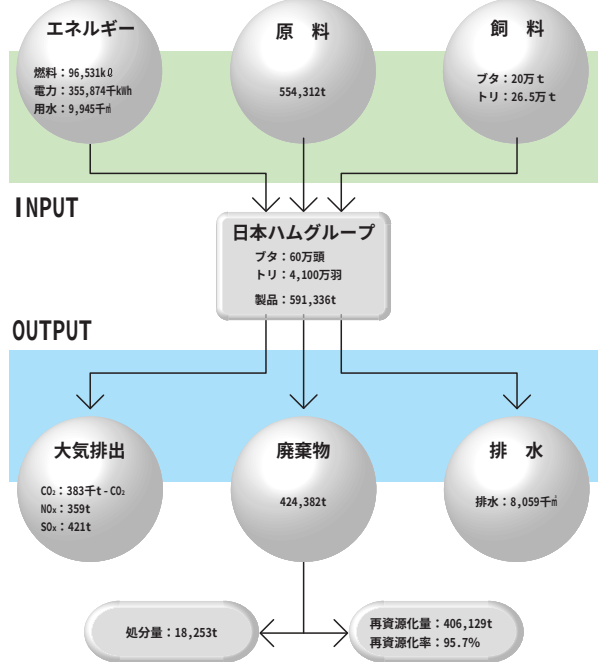
日本ハムグループでは、グループ全体の事業活動の流れと、各プロセスでの環境への影響を的確に把握し、「バーチャル・

インテグレーション・システム」を利用していくことで、トータルな視点から地球の資源やエネルギーの効率的な有効活用が図れます。

今回は、食肉関連事業を中心に構成いたしましたが、今後は発酵乳事業、水産関連事業など日本ハムグループ全体を網羅し、さらなるデータの充実を図っていきます。

対象:日本ホワイトファーム(株)4事業所、日本スワイン農場(株)4事業所、ハム・ソーセージ事業本部9工場、加工食品事業本部4工場、惣菜事業本部7工場、食肉事業本部11工場、東北日本ハム(株)2工場、協同食品(株)、南日本ハム(株)、(株)函館カール・レイモン、ベルタスフーズ(株)、(株)鎌倉ハム富岡商会、トーチクハム(株)、日本ドライフーズ(株)、マリンフーズ(株)、日本ビュアフード(株)9工場、日本ハム(株)97営業所

INPUT・OUTPUTトータルデータ
日本ハムグループの各工場での原料・エネルギーなどの環境からのインプット要因と、大気排出、排水、廃棄物などのアウトプット要因をデータでまとめたものです。詳しくはP27をご参照ください。



※バーチャル・インテグレーション・システム/食品の原材料生産・調達から処理・加工、流通・販売まで、すべてのプロセスを一貫して管理運営していく仕組みです。

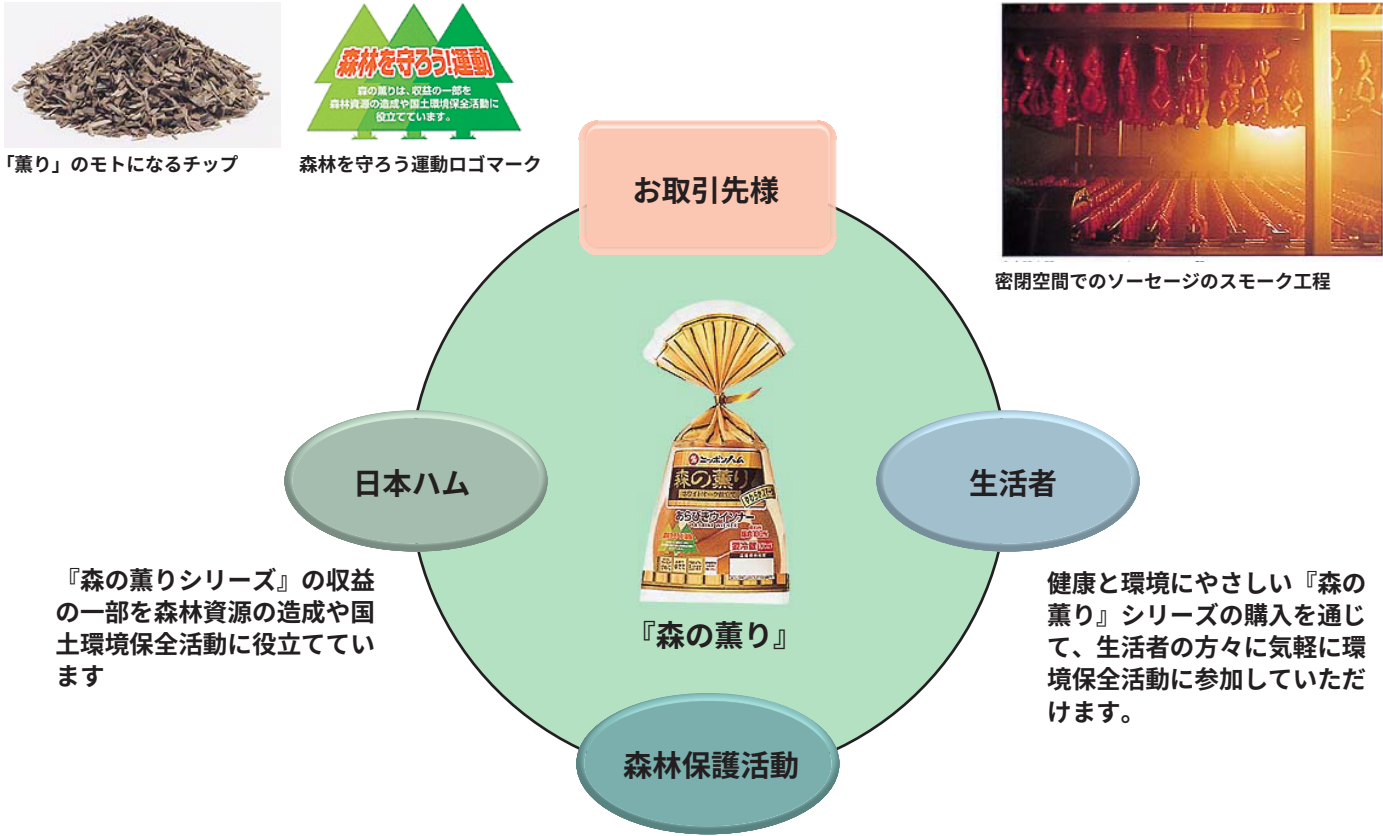
生活者の意識の高まりに応える、
環境と安全と健康に配慮した商品開発を進めています。

環境保護活動を支援する商品キャンペーン

収益の一部を森林資源の造成や国土環境保全活動に役立てる森の薫り「みんなの森林キャンペーン」を始めました。

『森の薫り』は、ロースハム、ボンレスハム、薄切りベーコン、ショルダーベーコン、ウインナーソーセージなどのラインナップからなる商品シリーズとして、1993年に発売を開始しました。このシリーズの特徴は「薫り」にあります。ハムやソーセージの製造にはスモークという工程があり、木々を細かく砕いた「チップ」を使用します。このスモークで「薫り」

」を出すために、森林資源の力を借りることが欠かせません。このキャンペーンは『森の薫り』を生み出している森林資源保護のために『環境保全活動として何かできないだろうか』という販促担当者の発案から企画されたものです。この活動場所として大成山（兵庫県・龍野市）を選定し、2002年3月1日（金）、近畿中国森林管理局（大阪市・北区）において『法人の森林（分収育林）』契約の調印式を行いました。



「薫り」のモトになるチップ



森林を守ろう運動ロゴマーク



密閉空間でのソーセージのスモーク工程

農林水産省林野庁の『法人の森林』制度を利用して『みんなの森林プロジェクト』を立ち上げました。収益の寄付だけでなく、森林保全活動に実際に参加することで、生活者の方々や流通の皆様にも参加貢献していただけるプロジェクトです。



植樹にも熱が入る

森林保全活動地・大成山（兵庫県）



環境負荷を低減する包装材・パッケージの開発

日本ハムグループの提供する製品が、工場で生産され、お店に配送され、お客様の食卓に届くまで商品を安全に守ってくれるのが梱包材や包装材です。しかし、それらを廃棄することで環境にも大きく影響を与えます。効率のよい輸送、陳列、ご家庭での廃棄などを考慮し、環境へのアウトプットをできる限り抑えていくことは、環境負荷の低減にとってとても大切なことだと考えています。

● ギフト化粧箱・宅配用包装材の環境配慮・省資源化への取り組み。

宅配用の簡易包装転換やギフト化粧箱などで、解体しやすくコンパクトに破棄することのできるパッケージを開発、実用化等きめ細やかな改良を積み重ねています。10年前と比較して、一年間で約300トンの資材の削減ができました。

	化粧箱		クールボックス		包装資材			年間使用量 (t)	
	蓋・身	中ゲス	発泡BOX	蓄冷剤	宅配用白箱	宅配用紙袋	簡易スリーブ		
1990	コートボール 段ボール 年間 約980 t	不織布 E 段貼 布=レーヨン等 1個当平均26 g 年間約145 t	発泡スチロール 平均110 g 年間約45 t	水分 (97%) 平均700 g 年間約280 t	クールBOX 用の外装箱 (コートボール) 平均130 g 年間約26 t	コートボール製の 外装箱 ↓ 片ツヤクラフト紙 P E 加工 平均24 g 年間約29 t	ポリプロピレン 平均2.2 t 年間1.5 t	約 1500 t	
1995	全体の約8割～9割が 成型品に変更 年間で約60 tの資源 が削減されている	成型中ゲス ポリエステル 平均12 g 年間約60 t	↓ 1/3 ↓ 1/10 ↓ □	箱用 150 g ↓ □	↓ 1/10 ↓ クールBOXの減少と ともに廃止	リサイクル可能 PE (ポリエチレン) 炭カル入り 平均20 g 年間約24 t		約 1200 t	
2000									
2002				ピーク時の1/3に縮小、 箱に転用したとすると 290 t/年が削減	ピーク時の1/3				
10年前と比較すると、1年間の平均で約300 tの資材の削減となる。									

● 脱塩素樹脂採用のパッケージ



安全・安心な商品提供のための対策

生活者にとって、一番身近な環境要因は直接身体に取り込むことになる空気と水と食品です。また、この三要素は、自然環境の大きなサイクルを構成するものでもあります。日本ハ

ムグループでは、安全・安心な商品の提供も大切な環境対策の一環として捉え、生活者の方に安心して召し上がっていただくための仕組みづくりを進めています。

●BSE（牛海綿状脳症）に対する対策と安全性の確認について

●牛肉トレーサビリティの強化と徹底
安全で安心できる牛肉をお届けするために、国内産牛肉の生産・飼育の履歴を遡ることのできるトレーサビリティの強化を進め、システム構築を行っています。
また、データベース化した耳標と枝肉ナンバーを管理。ボックスミートに添付されたラベルの枝肉ナンバーから流通履歴を追跡することができます。



ニッポンフィード牧場の預託農場での耳標管理

●100%植物性の安全な飼料を使用
牛の飼育と生産を担当するニッポンフィード牧場(株)では、これまでも肉骨粉の使用は一切ありません。抗生物質も使用せず、自然のハーブなどを使用することで病気を抑え、植物性飼料だけで健康に育てた安心な牛肉を提供しています。



植物性100%の飼料を貯えたタンク

●せき髄完全除去の実施
日本フードパッカー(株)は、枝肉解体時に、BSEの潜在特定部位とされるせき髄の完全除去を行っています。せき髄吸引除去装置を導入し全頭検査の上、危険4部位の完全除去・焼却処分を行っています。



脊髄除去の徹底

●ラベル・表示の適正確保
日本ハムグループでは、加工食品に義務づけられた原材料、使用添加物などの表示の適正確保を遵守しています。また、2002年4月から開始された加工食品に含まれるアレルギー物質の表示にも取り組んでいます。

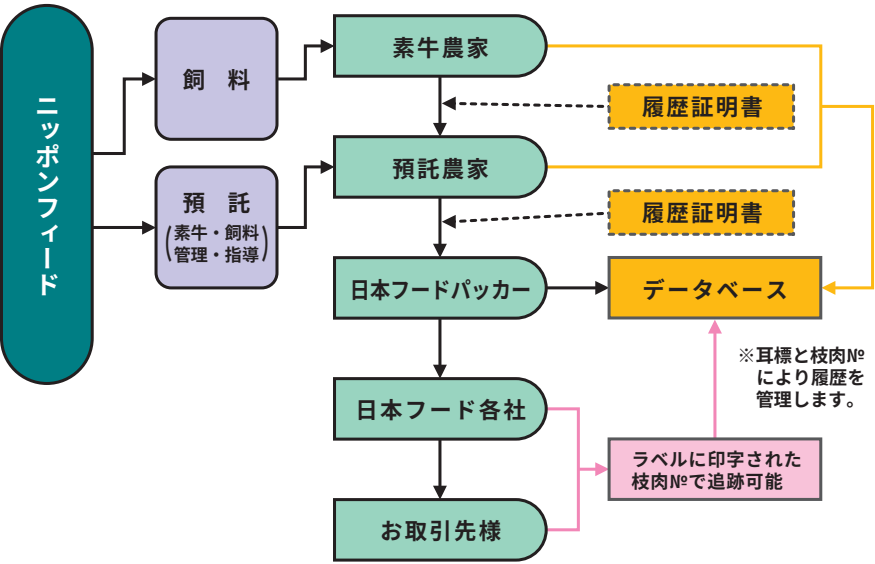
Nippon Ham・Nippon Ham・Ni

加熱食肉製品（加熱後包装）

品名	ウィンナーソーセージ
原材料名	豚肉、鶏肉、結着材料（でん粉（タピオカ）、小麦）、ポーク粗ゼラチン、大豆たん白、糖類（水あめ、ぶどう糖）、食塩、香辛料、ポークエキス、リン酸塩（Na）、調味料（アミノ酸）、酸化防止剤（ビタミンC）、pH調整剤、発色剤（亜硝酸Na）
内容量	105g
品質保持期限	表面下部に記載
保存方法	10℃以下で保存してください。
製造者	日本ハム株式会社 （本社）大阪市中央区南本町3-6-14 製造所固有記号は表面の品質保持期限の後に記載

品質保持期限は、未開封で保存した場合の期限です。保存料は使用しておりませんので、開封後はお早めにお召し上がりください。

生産履歴追及



●安全・安心のためのシステムづくりで万全を期しています

●合成保存料を使用しない
新鮮度管理システム
ハム・ソーセージ部門では、安心・安全な食品の提供のために、独自の鮮度管理システムを定めました。原料肉が商品となってお客様に届くまでのトータルな衛生管理を強化するものです。その結果、日本ハムのつくるソーセージ商品『シャウエッセン』『森の薫り』『ウニー』は、合成保存料を使わずにお届けできるようになりました。



『ウニー』

●健康によい肉は、
健康に育った環境から
鶏、豚を飼育しているファーム部門は「健康な肉は清浄な環境から生まれ、人々に健康をもたらす食材となる」という姿勢の下に広大な自然の中で事業活動を展開しています。



日本ホワイトファーム(株)知床・CS農場

●省令特定原材料キット
「FASTKIT」シリーズ
食品衛生法関連法令の改定により、アレルギー物質を含む食品に関する表示が新たに定められました。対象となるのは、重篤なアレルギー症状を引き起こす可能性のある卵、牛乳、小麦、そば、落花生の5つの特定原材料タンパク質です。日本ハム中央研究所では、この改定に対応した特定原材料検査キット『FASTKIT』シリーズを開発・発売しています。このキットは、これまでの単一の抗原タンパク質を検出する方法とは異なり、複数の抗原タンパク質を同時に検出できる特徴を持っています。



アレルギー検査のキット使用の研修



省令特定原材料検査キット『FASTKIT』

健康をもたらす食品提供をめざして

食べ物は人間にとって必要不可欠なものです。しかし、近年では、食物アレルギーに悩まれている方、生活習慣病の方、ご高齢の方など、食品を選ぶ際に十分な配慮が必要な方が増えつ

つあります。日本ハムグループでは、そのような方でも安心して食べられる食品の開発を行い、多くの方が健康な毎日を過ごすためのお手伝いができればと考えています。

●食物アレルギーに対応した

☑アレルギー除去食品開発

日本ハム中央研究所では、食物アレルギーをお持ちの方でも安心して食べられるアレルギー除去食品『アピライト』シリーズの開発を行っています。『アピライト』は、食肉製品で初めての厚生労働省の許可を得たアレルギー除去食品（卵・牛乳アレルギー用）です。



アレルギー対策の『アピライト』シリーズ

●特定保健用食品

●血糖値が気になる方に

☑『Dr.のむヨーグルト』

日本ルナ☑では、食後の血糖値の急激な上昇をおだやかにする特定保健用食品『Dr.のむヨーグルト』を発売しています。低脂肪・砂糖不使用の低カロリータイプで、ダイエット中の方にもおすすめの商品です。



『Dr.のむヨーグルト』

●血中コレステロールを低下させる

☑『ワンディバランス』

脂肪分を50%カットし、植物性油脂を配合して最適の脂肪酸バランスを実現した『ワンディバランス』は、血液中のコレステロールを低下させる働きのある大豆グロブリンを配合。お肉類は好き、でもコレステロールが気になるという方の食生活改善に役立つ、厚生労働省許可の特定保健用食品です。



『ワンディバランス』

●健康な関節を、

☑毎日の食事でサポート

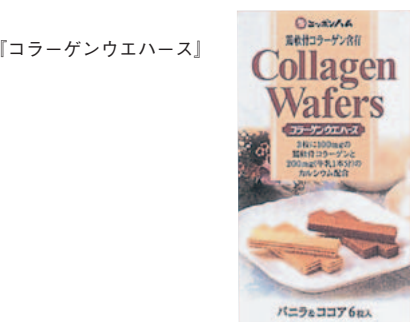
日本ハム中央研究所では、畜産副産物が有効成分の宝庫であることに着目し、その機能性成分の研究に取り組んできました。中でも鶏軟骨Ⅱ型コラーゲンやポークペプチドなどを利用して、多くの商品を開発しています。『グルコミサンスープ』は中高年の方、スポーツをする方、力仕事をする方の関節を強化



『グルコサミンスープ』



『コラーゲンスープ』



『コラーゲンウエハース』

する機能性食品として、関節に重要なグルコミサンとⅡ型コラーゲン、コイドロイチン、ビタミンDとカルシウムを配合したスープです。同群に『コラーゲンスープ』『コラーゲンウエハース』『コラーゲンプラス』『鍛節』『スポルコプロ』等があり、また、ポークペプチドの肝機能向上作用で、お酒を飲まれる方の健康をサポートする『ペプコールカプセル』の開発・商品化も行っています。



『コラーゲンプラス』



『鍛節』



『スポルコプロパウダー』
『スポルコプロ』

●高齢者のための開発商品

●介護食においしさと安心を

☑とろみ調整食品『ノムミール』

風味をそこなわずに、牛乳や濃厚流動食に簡単にとろみをつけることができます。『ノムミール』を開発、発売いたしました。とけやすい顆粒状タイプで、ミキサー食にも使用できます。食べにくかった流動性の介護食を、食べやすく、かつ、おいしく摂ることができます。



『ノムミール』

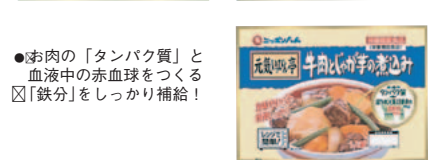
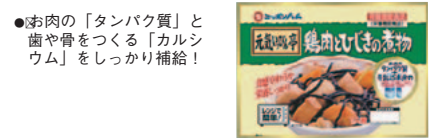
●高齢者の方に十分な栄養とおいしさを

☑『元気いっぴん亭』シリーズ

できるだけ長く健康に暮らしたい。そんな高齢者のニーズに応えた『元気いっぴん亭』を発売しました。高齢者に不足しがちな動物性タンパク質やミネラルを、ご高齢の方でも食べやすく簡単にお召し上がりいただけるシリーズです。このシリーズは、厚生労働省より制度化された保健機能食品（栄養機能食品）の規格基準に適合した商品です。

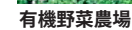


●お肉の「タンパク質」と歯や骨をつくる「カルシウム」をしっかり補給！

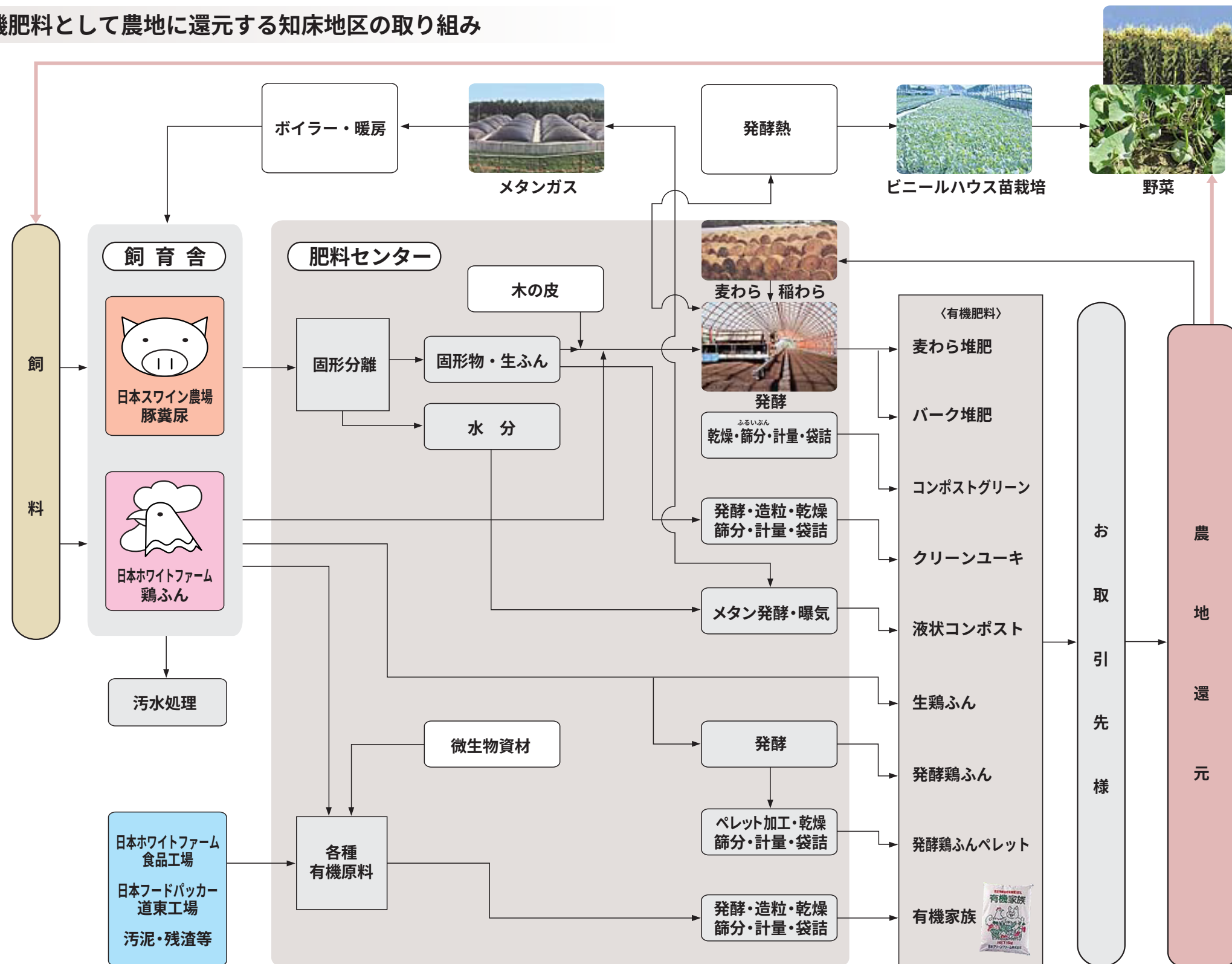
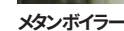


利用し廃棄物をゼロにするゼロ・エミッションを目指した環境活動を行っています。この実現は、清浄な飼育環境と衛生的な管理体制をもたらし、品質の高い食肉生産と両輪をなしていま

日本スワイン農場知床肥料センターでは、知床地域の畜舎、鶏舎から発生する糞尿のすべてを有用微生物を利用して処理し、堆肥や有機質肥料、※コンポストの生産・販売を行っています。畑から取れた飼料を餌とする家畜の排泄物は、有機成分である窒素・リン・カリ成分をバランスよく含み、土壌、作物にとって貴重な資源です。地域のお取引様を通じて農家の方々にお使いいただき、再び畑に戻っていきます。



日本スワイン農場では、養豚の副産物として発生する家畜糞尿からメタンガスを発酵させ、エネルギーとして再利用しています。メタン発酵施設から発生するメタンガスは温水ボイラーの燃料として利用され、この温水は発酵槽自体の保温に使われています。さらに、ファーム内の家畜舎へガス配管を引き、子豚などの保温に利用しています。この処理段階で家畜糞尿の臭気を取り除かれるという相乗効果もあります。



●ファーム内から発生する
排水を回収して処理
日本ホワイトファームの鶏舎内で発生
する汚水は沈殿池で集め、排水処理施
設に運搬し浄化させて放流しています。
汚水の回収は、ファーム内での雑菌の
繁殖を防ぎ、クリーンで安全な『知床
どり』の飼育に貢献しています。



バーク堆肥はエアー配管し、ブローア
で強制通気すると、70度もの発酵堆肥
熱を発生します。この堆肥にパイプを
通し水を循環させることで、堆肥熱を
温水で回収し有効利用することができ
ます。知床肥料センターでは、この堆
肥熱で温められた温水をビニールハウ
ス内に引き込み、その熱を利用して野
菜や花の栽培を行っています。



安全な飼料から有機肥料へ、そして良質のワインが生まれる。 宮崎地区での循環型環境リサイクルへの取り組み。

宮崎地区では、ファーム事業と有機肥料生産事業体、地域が一体となった独自の環境活動が実現されています。産業廃棄物となる鶏ふんを原料とし、有機肥料として再利用されるこ

とで、環境へのアウトプット低減からゼロ・エミッションへ、さらに循環型リサイクル社会への取り組みが行われています。

日本ホワイトファームと地域事業体との連携が生み出した宮崎地区の「循環する大地」

宮崎県で鶏の飼育事業を行っている日本ホワイトファームから排出されるすべての鶏ふんは宮崎環境保全農業協同組合で有機肥料として生まれ変わります。安全な飼料で健康に飼育された鶏ふんには、よい土壌を生み出すさまざまな有機物が含まれています。宮崎地区では、鶏ふん肥料が豊かなぶどう作りに利用され、美味しいワインの醸造に貢献しています。この資源の循環の仕組みをご紹介します。



●土本来の生命力を甦らせる有機肥料
宮崎環境保全農業協同組合は、日本ホワイトファームから排出される鶏ふんを優れた有機肥料に再資源化し、本来の土づくりに貢献しています。美味で健康な農作物は、肥沃な土の養分を吸収して育まれます。肥沃な土づくりに欠かせないのが微生物の働きです。土づくりは、その微生物が本来持っている力を引き出すもので、微生物の活性には有機肥料が大きな役割を果たします。

日本ホワイトファーム

健康な飼料

鶏ふん

宮崎環境保全農業協同組合



発酵槽



炭化炉



ペレットマシン設備

有機肥料



微生物的土壌
活力強化肥料
『土のいぶき』



発酵完熟有機肥料
『みなみ』

都農ワイナリー



微生物によっていい土ができる



牧内農業生産組合ぶどう園様



●おいしいワインの基本は土づくり
健全なぶどうの木から、
最高のワインが生まれる。
宮崎環境保全農業協同組合独自の高温・
長期発酵技術から生み出されるのが、
微生物的土壌活力強化肥料の『いぶき』
と発酵完熟有機肥料『みなみ』です。こ
の肥料を使って健全な土づくりを行っ
ているのが地元の都農ワイナリー様で
す。ワインの質は、原料となるぶどうの
質に大きく左右されます。都農町が進
める『グリーンガイア』を使った食品
・汚泥の発酵肥料と一緒に使用し、健
全なぶどうづくりを進めています。こ
の肥料を使うことで、農薬の散布がこ
れまでの十分の一に減少。鶏ふんを原
料とする宮崎環境保全農業協同組合の
有機肥料が大きく役立っています。
大地の資源を本来のサイクルに戻すこ
とで得られたこのワインは、まさに地
球を救う一滴といえるものです。



都農ワイナリー様のワイン樽



IS014001認証取得をきっかけに始まった 和歌山工場の環境経営。

日本ハム和歌山工場では、2001年9月にISO14001を認証取得しました。これを期に、和歌山工場では環境保全活動と経営改善を結びつけたさまざまな取り組みを実施しています。それらの取り組みは、具体的な数字として2001年下期から大幅

な改善効果として現れました。工場の従業員一人一人が自分の役割を理解し、チームワークで確実に業務を行った結果が花開き、一段とレベルアップが期待されます。和歌山工場の2001年度の取り組みをご紹介します。

従業員の環境への思いが、大幅な環境負荷を削減しました

●全従業員の意識改革を目指した
環境教育・啓蒙活動体系

和歌山工場では、環境保全への意識改革を行うため、綿密な教育プログラムを構築しています。全従業員への環境教育・啓蒙を行う一般教育、指定業務従事者や資格者、内部監査人の養成を行う専門教育など、各階層にあわせたプログラムとなっています。また、危機管理を徹底するために、緊急事態を想定した模擬訓練も職場ごとに行っています。



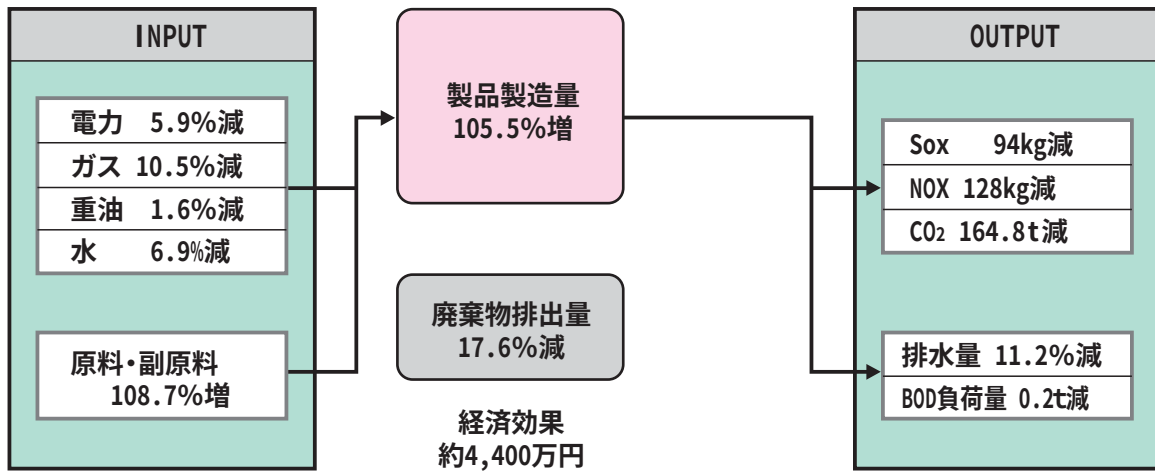
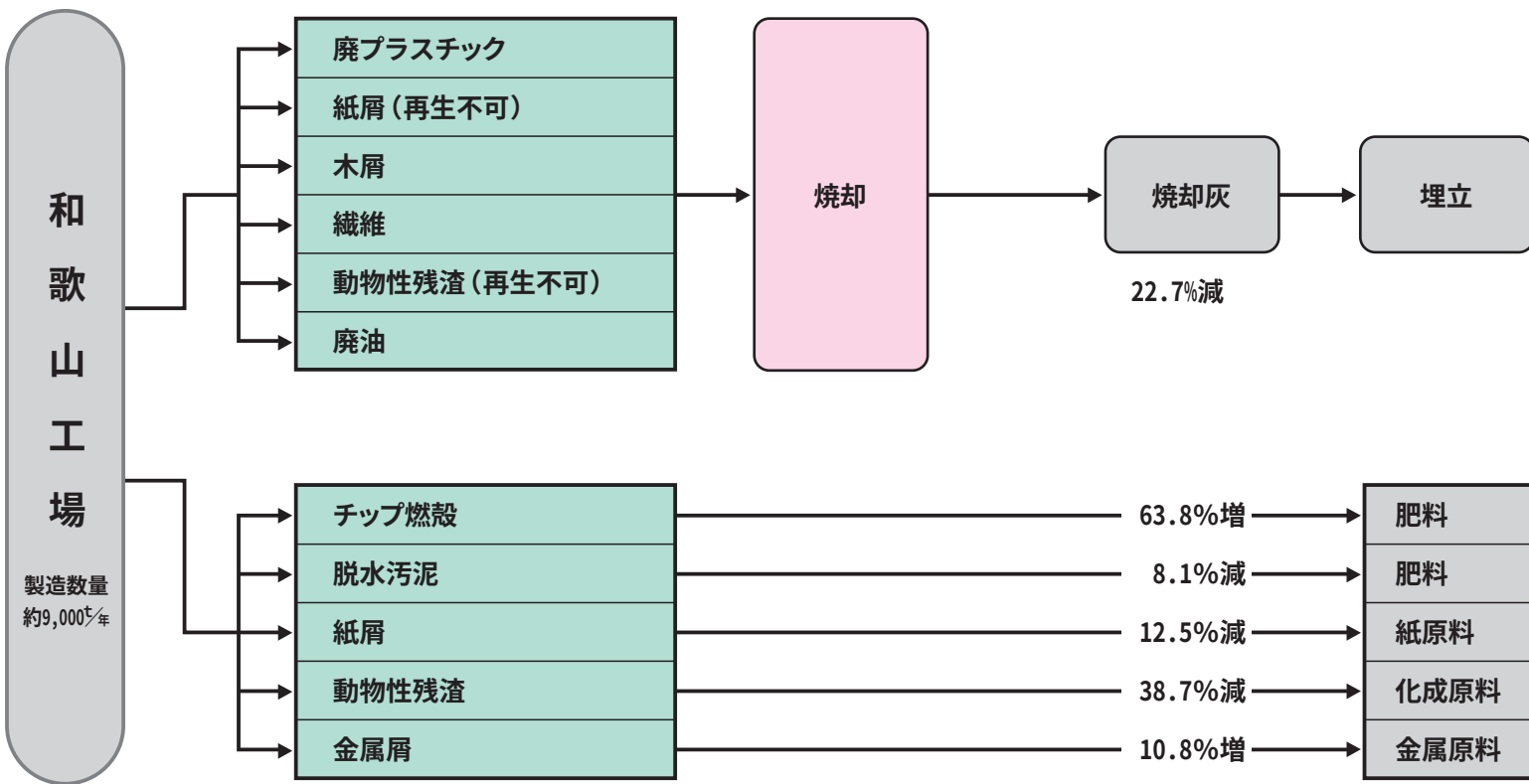
和歌山工場遠景

●水資源の再利用

和歌山工場では、排水処理施設で浄化した水を、もう一度屋外の清掃用水や焼却炉の洗浄水として再利用しています。



水資源のリサイクル



環境目的	環境目標	目標値	実施項目
天然資源の有効活用	電力使用料の削減	昨年比2.6%減	28件
	燃料使用料の削減	昨年比2.1%減	9件
	用水量の削減	昨年比4.8%減	20件
	リサイクル率を維持し、廃棄物排出量の削減をする	昨年比6.4%減 (リサイクル率98%)	31件
	場内緑地の整備		
啓蒙活動の推進	通動車・納品車へのアイドリングコントロール推進		
EMSの効果的運用	環境会計を導入し、半期毎の効果を集計する		
法規制遵守	届出変更の完了		

	平成12年	平成13年
汚泥	420.0	386.0
廃油	0.9	0
金属屑	23.1	25.6
紙屑	369.2	323.1
動物性残渣	363.6	226.6
チップ燃殻	11.6	19.0
焼却灰	23.3	18.0
計	1211.7	998.3

(単位：t)

●消滅型焼却炉への転換開始

和歌山工場では、さらに廃棄物を削減しリサイクル効率を高めるために、現在の焼却炉に代わる動物性残渣消滅型処理機での新たな分解テストを開始しています。



消滅型の処理機で動物性残渣を分解

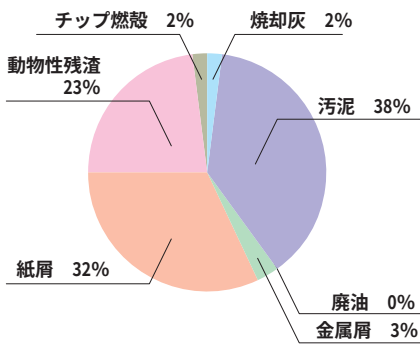
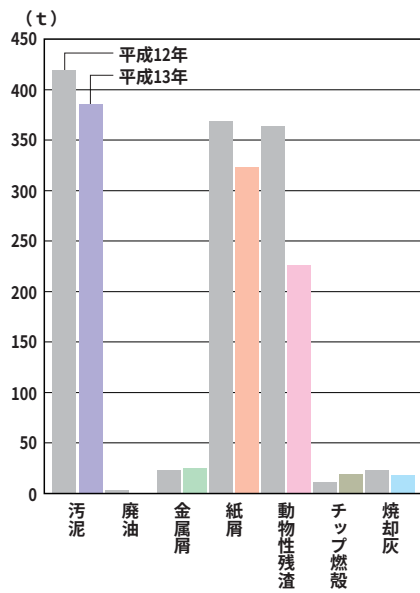
●工場内の緑地整備

工場で働く人の憩いの場として、工場内緑地の整備を行いました。緑地には休憩用のベンチが置かれ、飲み物の容器を分別するリサイクルBOXも置かれています。



●おいしい食事を提供する従業員食堂

和歌山工場では、従業員食堂での食べ残しの削減にも取り組んでいます。厨房スタッフを始め、パートの従業員まで全員でメニューを工夫するなど、美味しく食べ残すことのない食事を提供し、ゴミ削減に貢献しています。



従業員一人一人の小さな活動から地域環境の保全運動まで、 一步一步、着実な環境活動を実践しています。

環境保全活動では、各事業で働くグループ従業員一人一人の意識改革が何よりも大切です。そのため日本ハムグループでは、各販売部・営業所（グループ会社含め約210カ所）ごとに

環境担当者を選任し、さまざまな環境保全活動を行っています。また、地域と一体となった環境保全活動にも積極的に参加しています。

全社的な営業活動での環境保全活動をはじめ、各営業所での身近な取り組みにも力を注いでいます。

●福井営業所にエコ・アيسを導入
日本ハム福井営業所では、地域の電力会社北陸電力が推進するエコ・アيسを導入しています。エコ・アيسは、夜間電力を利用して氷や温水を蓄え、昼間の空調に利用するシステムで、需要の多い昼間電力を抑えることができ、省エネルギー及び電力料金の削減に大きく役立つシステムです。営業所の施設面積を約3倍拡大したのに対し、使用電力料は以前の9割程度に抑えられています。

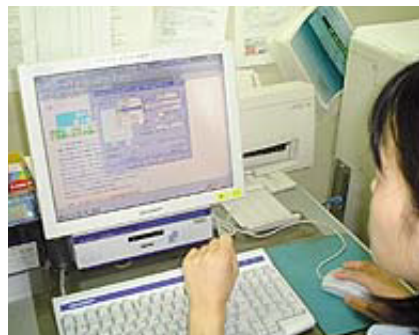


福井営業所外観



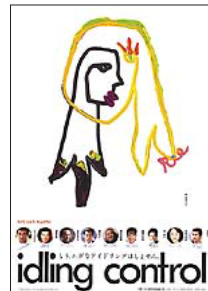
冷蔵庫前の荷捌場

●東北日本ハム(株)会津若松営業所での環境保全活動への身近な取り組み
会津若松の営業所では、環境への影響を少しでも削減できるように、身近な工夫や改善を行っています。これまで捨てていたものを再利用することで、環境保全に役立っています。例えば、こまめな節電や営業車のアイドリングストップを始め、封筒の再利用、カレンダーなど使い終わった用紙も裏面を利用して封筒にしています。FAX・コピー用紙も両面を使用、トナーもリサイクル。給湯室でも、洗剤をできるだけ使用しないようにしています。



印刷の時なるべくモノクロ印刷にする

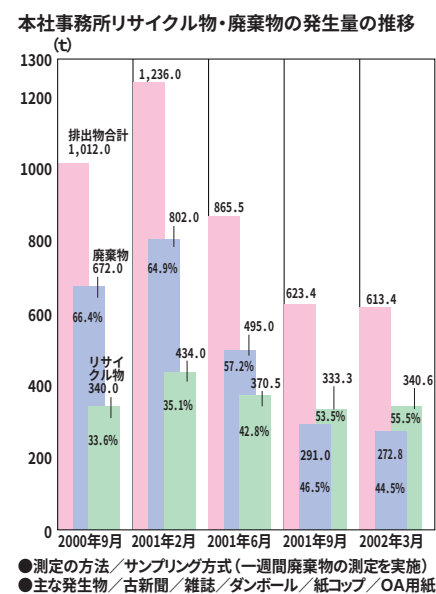
●CCC活動の一環として、「アイドリングコントロール運動」を全社で展開中
CCC（自然文化創造会議）は、倉本聡氏、C.W.ニコル氏、椎名誠氏などフィールドワークを主体にした6人の作家が環境破壊を阻止するために結成したグループです。日本ハムグループは、彼らの活動理念に賛同し、協賛を行うとともに、その一環として、「アイドリングコントロール運動」の取り組みを1999年度から実施しています。日本ハムグループ営業車の多くは、適正に温度管理された商品を生活者の皆様にお届けするために冷凍冷蔵車を使用しています。そのため、品質維持の面から一律にアイドリングを停止するのではなく、運転者の裁量で実施を行うアイドリングコントロール運動を行っています。



「アイドリングコントロール」ポスター（宮沢りえ絵）

●クリーンエネルギー天然ガス自動車
今後の導入を再検討
日本ハムグループでは、環境保全活動の一環として営業車のクリーンエネルギー低公害車の導入を進め、これまで12台をテスト的に導入いたしました。しかし、利用者から燃費や駆動力、給油等でやや問題があることが指摘されて、現在は、国土交通省の基準に従った「低排出ガス車」の採用を行っています。

●事業所での啓蒙・リサイクル活動
本社・支社の環境対策委員や食肉事業部門のマナー委員会などで、紙のリサイクル施設の見学やオフィスのクリーン作戦を実施し、環境活動とリサイクルの啓蒙活動を行っています。また、事務所内の各部署にリサイクルボックスを設置。オフィスの紙ゴミのリサイクルを推進し、封筒の再利用、ゴミ箱の削減、コピー紙の両面利用など、ごみの発生抑制に積極的に取り組んでいます。例えば、2001年2月と3月での本社事務部門サンプリング調査比較では、リサイクル率・廃棄物の削減で、ともに約20%の改善効果が現れています。



食肉マナー委員会によるリサイクル活動

●グリーン購入の推進
オフィスで使用されるさまざまな事務用品も、古紙を利用し環境に配慮した「グリーン購入」を進めています。「べんりネット」の活用により、エコ商品の選択をしやすくし、エコ商品の比率向上に取り組んでいます。



インターネットを利用し「グリーン購入」を推進

●再生紙の使用徹底
事務、営業、広報活動では多くの紙が使用されます。グループ全体での使用量を考慮し、森林資源の有効活用のため、日本ハムグループでは、事業所で使用される封筒、各種パンフレット、名刺、PR誌、コピー用紙などは優先的に再生紙を使用しています。



再生紙の使用例

●環境を意識した卓上カレンダー
日本ハムが毎年配布している卓上カレンダーには、月毎に日常生活の中で実践できる環境保全のためのポイントや、CO₂削減について分かりやすく解説してあります。



卓上カレンダー



本社事務環境対策委員会による古紙溶解ラインの見学

従業員自ら環境保護活動に参加することで、
環境への意識を高め、自然保護に貢献しています。

●従業員とその家族による
「森林を守ろう！運動」活動報告
『森の薫り』で展開している『森林を守ろう！運動』では、日本ハムグループ従業員とその家族がボランティアとして森林の保護育成に積極的に関っています。日本ハムは、2002年3月に兵庫県龍野市大成山の天然林5.25ヘクタールを『法人の森林』1号地として国と契約。育林費用等を負担するとともに、森林の管理を行うものです。毎月約2回、10～20人で山に入り、下草刈りや地ごしらえ、植樹などの森林保護活動を行っています。



苗木を持って大成山へ

●自然保護活動を各地で実施
釣り場に残されたテグスや釣り針で命を落す野鳥は、現在も後をたちません。また、日本に飛来する渡り鳥も年々減少しています。日本ハムグループは、全国各地で行われている日本鳥類保護連盟主催の野鳥や自然を守る運動を支援し、従業員のボランティアを社内と呼びかけています。その一つである『渡り鳥を守るレイクサイドクリーンキャンペーン』は、川や湖に放置されたテグスやゴミの回収を行なうことで、野鳥と自然を保護することを目的にした活動です。



河口湖『渡り鳥を守るレイクサイドクリーンキャンペーン』

- 2001年度自然保護活動参加状況報告
- 2001年10月13日 河口湖『渡り鳥を守るレイクサイドクリーンキャンペーン』
- 2001年10月14日 相模大堰『テグスクリーンキャンペーン』
- 2001年11月14日 宮島の森定期巡視
- 2002年3月3日 宮島『冬の植物観察会』



宮島『冬の植物観察会』
相模大堰『テグスクリーンキャンペーン』



環境会計

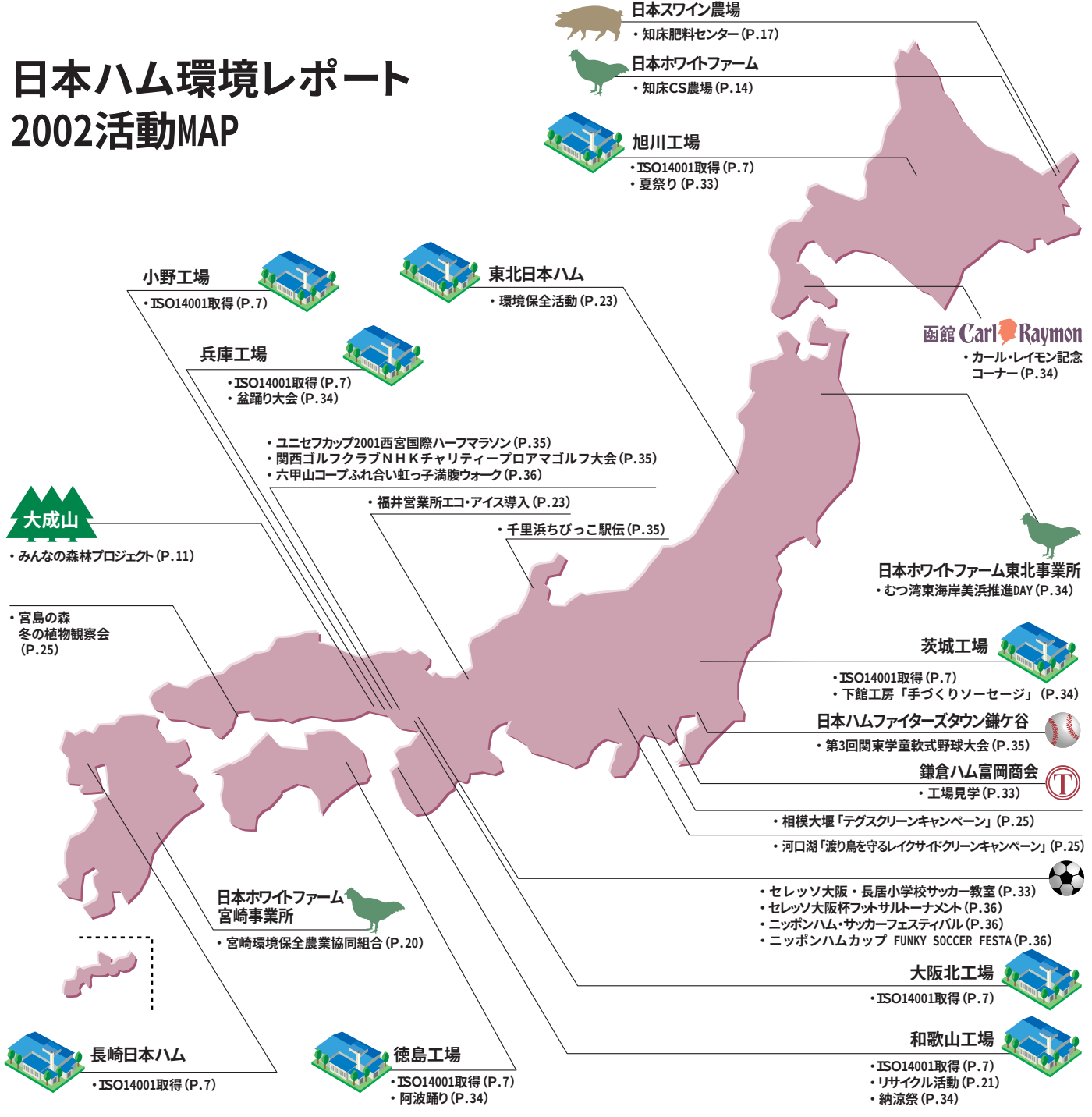
日本ハムグループでは環境省ガイドラインに準拠した算出基準を設定し2000年度よりハム・ソーセージ事業部門にて環境会計を試行してまいりました。2001年度の環境保全コストと効果の算出結果は右記の通りとなりました。

★集計対象 ハム・ソーセージ事業部門の9工場（日本ハム㈱旭川、茨城、大阪北、和歌山、兵庫、徳島、小野各工場及び静岡日本ハム㈱、長崎日本ハム㈱）
★対象期間 2001年4月1日～2002年3月31日

環境保全コスト				単位:万円
分類	主な内容	投資額	当期費用	コスト合計
事業エリア内コスト		1,590	40,645	42,235
内 公害防止コスト	大気・水質・騒音・悪臭の防止など	164	9,168	9,332
地球環境保全コスト	温暖化防止(省エネ)、オゾン層保護	633	4,603	5,236
資源循環コスト	廃棄物処理、減量化、リサイクル対策	793	26,874	27,667
上下流コスト	グリーン購入、容器包装対策など		4,202	4,202
管理活動コスト	環境教育、ISO14001、人件費など		9,877	9,877
社会活動コスト	緑化、地域活動、支援、情報開示など		1,781	1,781
環境損傷コスト	修復(及び引当金)の為の費用		91	91
合計		1,590	56,596	58,186

＜算定方法に関する注記事項＞
※固定資産は当期取得額を投資額として計上しています。(当期費用には減価償却費は含まれておりません。)
※環境目的とされる費用を集計していますが、他目的との複合的なコストは差額方式または按分方式にて算出しています。
※人件費は環境目的分を算出し、全て管理活動コストに算入しています。

日本ハム環境レポート
2002活動MAP



●効果の把握範囲
金額的效果については、下記の明確に金額換算できるものに限定して算出しています。リスク削減効果やその他の関連効果も多くあるものと考えますが、算定根拠が社会的にも確立されていない為、現時点では算出しておりません。

分類	効果金額
①省エネによる費用削減効果(電力・燃料・水)	3,996万円
②廃棄物削減による費用削減効果	3,003万円
③リサイクルによる有価物件売却額	171万円
合計	7,170万円

環境保全効果については物量による増減効果として併記する方法をとっています。
●環境経営のツールとして
日本ハムグループでは今後この環境会計を経営の意思決定ツールとして活用していきたいと考えています。その為には、効果を金額換算する標準的方法を検討する事とハム・ソーセージ部門から全社への適用拡大に向けて進めてまいりたいと思います。

分類	効果(低減)量	昨年対比
①廃棄物再資源化率	77.60%	0.2%増加
②廃棄物処分量 (原単位効果)	389t削減	11.0%削減 (11.4%削減)
③燃料(原油換算) (原単位効果)	462kt削減	2.8%削減 (5.5%削減)
④購入電力 (原単位効果)	1,860千kw削減	2.5%削減 (5.0%削減)
⑤CO2排出量 (原単位効果)	1,936t削減	2.7%削減 (5.2%削減)
⑥用水 (原単位効果)	73,651m³削減	4.0%削減 (6.5%削減)

データから見る環境活動

日本ハムグループでは、各ファーム、各工場、営業活動における2001年度の環境活動の全体像を捉え、目標達成の評価と次年度への目標設定のために、原材料・エネルギーなどのインプットデータ、大気排出などの環境へのアウトプット・デ

ータ、さらに、廃棄物の再資源化などのリサイクル率を独自に集計しています。(表中の2001年度(注)及び2000年度の各実績は、『環境レポート2001 日本ハム 環境への取り組み』に掲載した事業所を対象としています)

●工場（パッカー、ハム・ソーセージ事業、加工食品事業）

●エネルギー・用水の使用量

●表中の2001年度(注)及び2000年度の各実績は、『環境レポート2001 日本ハム 環境への取り組み』に掲載した事業所を対象としています。

	2001年度	2001年度(注)	2000年度
A重油 (kl)	45,668	34,793	34,869
灯油 (kl)	1,014	677	607
都市ガス (千m ³)	650	650	685
LPG (t)	17,030	16,105	13,167
購入電力 (千kWh)	291,082	240,975	231,281
用水 (千m ³)	9,265	7,665	7,344

●大気排出量

	2001年度	2001年度(注)	2000年度
CO ₂ (千t-CO ₂)	290	238	225
NOx (t)	232	191	180
SOx (t)	384	292	293

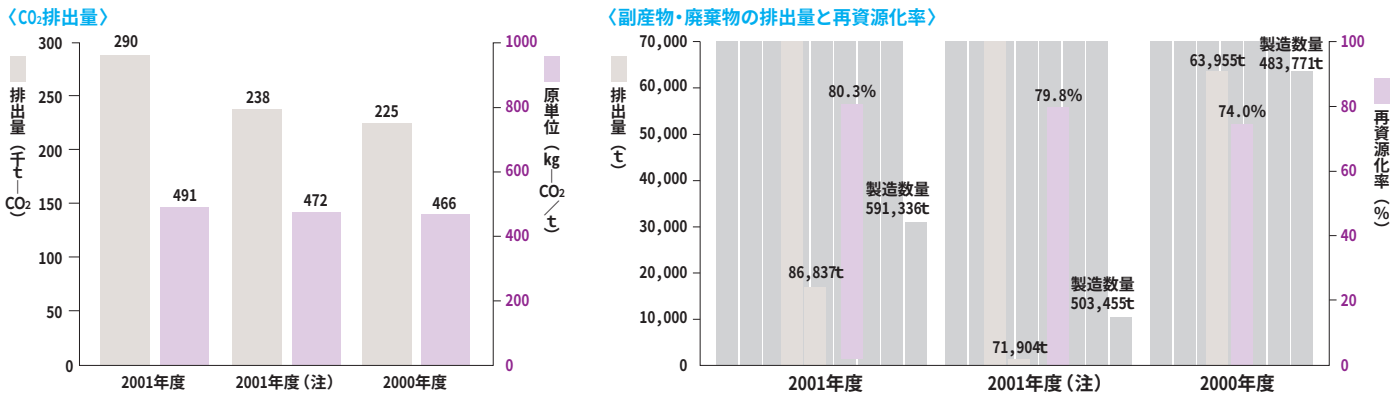
●副産物、廃棄物の発生及び再資源化状況

	2001年度			2001年度(注)			2000年度		
	排出量 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)	排出量 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)	排出量 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)
余剰汚泥	26,272	18,341	69.8	20,760	13,540	65.2	21,926	12,731	58.1
廃油	2,861	2,844	99.4	2,780	2,771	99.7	2,690	2,630	97.8
廃プラスチック	3,727	118	3.2	2,910	113	3.9	2,908	1	0.0
動植物性残渣	39,609	35,847	90.5	33,069	29,786	90.1	24,660	21,598	87.6
紙くず・廃段ボール	10,340	9,542	92.3	9,122	8,765	96.1	8,449	7,980	94.4
金属くず	1,264	1,074	85.0	1,127	977	86.7	1,057	1,002	94.8
ガラスくず	16	8	47.4	14	8	52.9	105	87	82.3
焼却灰	572	102	17.8	566	102	18.0	627	48	7.7
その他	2,177	1,875	86.1	1,555	1,324	85.2	1,532	1,222	79.8
計	86,837	69,749	80.3	71,904	57,384	79.8	63,955	47,298	74.0

●原単位当たりの推移

		2001年度	2001年度(注)	2000年度
I N	製造数量 t	591,336	503,455	483,771
	エネルギー			
	燃料 l/t	118	114	111
	電力 kWh/t	492	479	478
O U T	用水 m ³ /t	16	15	15
	排出量 kg/t	147	143	132
	再資源化量 kg/t	118	114	98
	処分量 kg/t	29	29	34
	排水 m ³ /t	13	13	13
	CO ₂ kg-CO ₂ /t	491	472	466
	NOx kg/t	0.39	0.38	0.37
	SOx kg/t	0.65	0.58	0.61
	大気排出			
	CO ₂ 千t-CO ₂	290	238	225

※原単位とは、製造1t当たりの使用量または、排出量などを表します。



各エネルギーの燃料(原油)換算係数

	原油(kl)
A重油 1kl	1.01
灯油 1kl	0.96
都市ガス 1千m ³	1.06
LPG 1t	1.30

出典:エネルギー使用の合理化に関する法律施行規則(抄)

エネルギーのCO₂および大気汚染物質の排出係数

	CO ₂	NOx	SOx
A重油	2,698kg-CO ₂ /kl	2.10kg/kl	8.4kg/kl
灯油	2,528kg-CO ₂ /kl	1.70kg/kl	0.13kg/kl
都市ガス	1.991kg-CO ₂ /m ³	1.71×10 ⁻³ kg/m ³	—
LPG	3,007kg-CO ₂ /t	2.84kg/t	—
購入電力	0.384kg-CO ₂ /kWh	2.92×10 ⁻⁴ kg/kWh	—
ガソリン	2,359kg-CO ₂ /kl	8.2kg/kl	0.16kg/kl
軽油	2,644kg-CO ₂ /kl	18.3kg/kl	0.83kg/kl

出典:CO₂:環境活動評価プログラム—エコアクション21— 1999年9月 環境庁
NOx:環境活動評価プログラム—エコアクション21— 1999年9月 環境庁
SOx:算定根拠:比重(kg/l)×硫黄含有率(%)×0.01×64(SO₂)÷32(S) × 1,000 数値は、あくまで参考値。(JIS規格上限りぎりの燃料を使用し、その含有硫黄がすべて完全燃焼した上で、それがすべて排出された場合と想定した場合の条件)

●ファーム（食肉事業・肥育）

対象:日本ホワイトファーム㈱4事業所、日本スワイン農場㈱4事業所

●エネルギー・用水の使用量

	2001年度	2000年度
A重油 (kl)	3,884	4,449
灯油 (kl)	11,007	10,855
都市ガス (千m ³)	0	0
LPG (t)	6,501	3,908
購入電力 (千kWh)	40,654	33,186
用水 (千m ³)	655	630

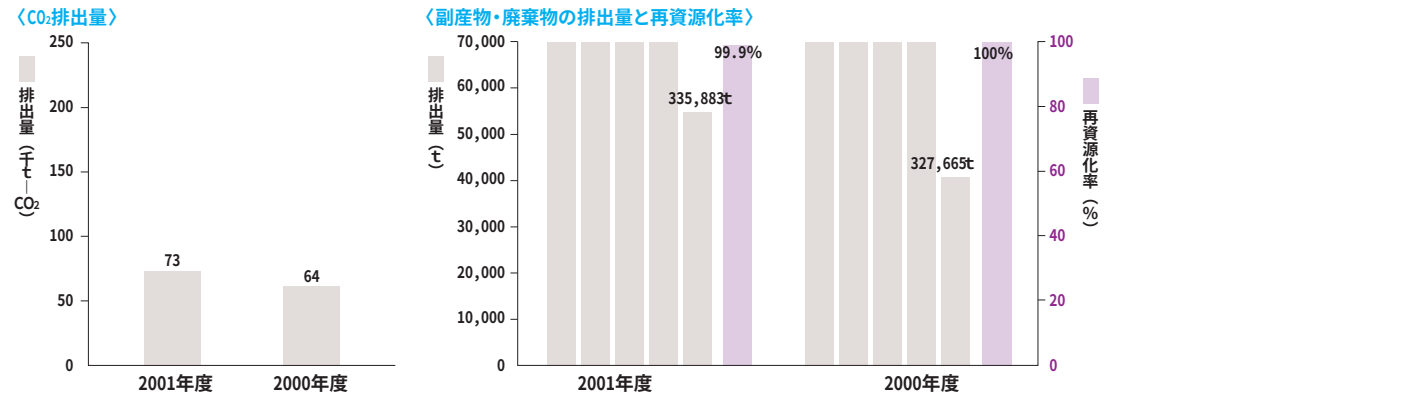
●大気排出量

	2001年度	2000年度
CO ₂ (千t-CO ₂)	73	64
NOx (t)	57	49
SOx (t)	34	39

●副産物、廃棄物の発生及び再資源化状況

	2001年度			2000年度		
	排出量 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)	排出量 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)
余剰汚泥	14,404	14,404	100.0	9,975	9,949	99.7
廃油	3	0	0.0	2,677	2,650	99.0
廃プラスチック	127	95	74.7	5	0	0.0
動植物性残渣	465	465	100.0	90	90	100.0
紙くず・廃段ボール	32	6	19.7	2	0	0.0
金属くず	105	23	22.0	7	0	0.0
ガラスくず	3	0	0.0	0	0	0.0
焼却灰	197	197	100.0	198	198	100.0
動物の糞尿	320,467	320,467	100.0	314,711	314,711	100.0
その他	81	7	8.6	0	0	0.0
計	335,883	335,664	99.9	327,665	327,598	100.0

※「動物の糞尿」は、計量方法を変更しました。



●パッカー（食肉事業・処理）

対象：日本フードパッカー(株)5工場、日本フードパッカー四国(株)、日本フードパッカー鹿児島(株)、日本ホワイトファーム(株)4工場

●エネルギー・用水の使用量

	2001年度	2000年度
A重油 (kl)	12,940	12,210
灯油 (kl)	149	96
都市ガス (千m³)	0	0
LPG (t)	1,268	34
購入電力 (千kWh)	31,957	31,275
用水 (千m³)	3,651	3,568

●大気排出量

	2001年度	2000年度
CO ₂ (千t-CO ₂)	51	45
NOx (t)	40	35
SOx (t)	109	103

●副産物、廃棄物の発生及び再資源化状況

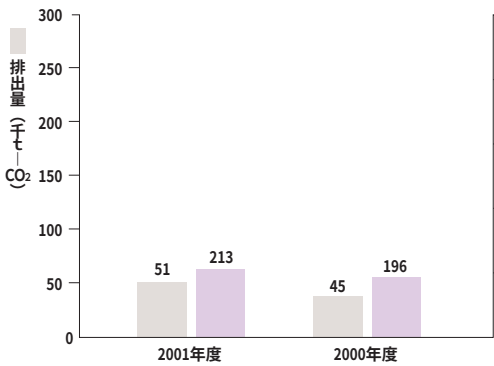
	2001年度			2000年度		
	排出量 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)	排出量 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)
余剰汚泥	12,416	5,990	48.2	12,601	4,730	37.5
廃油	5	2	37.0	47	4	8.5
廃プラスチック	161	0	0.0	225	0	0.0
動植物性残渣	26,059	24,069	92.4	18,529	17,284	93.3
紙くず・廃段ボール	123	100	81.2	108	47	43.6
金属くず	75	7	8.7	103	59	57.3
ガラスくず	1	0	0.0	3	0	1.6
焼却灰	23	1	5.8	13	3	23.1
その他	1,021	1,016	99.5	1,055	927	87.8
計	39,884	31,185	78.2	32,684	23,054	70.5

●原単位当たりの推移

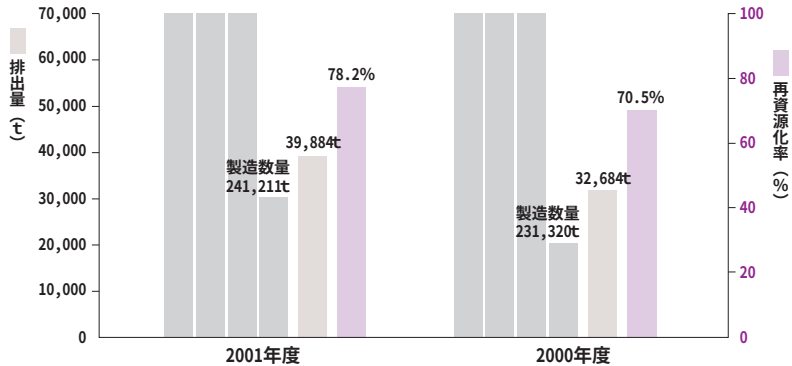
		2001年度	2000年度
I N	製造数量 t	241,211	231,320
	エネルギー 燃料 l/t	62	54
	電力 kWh/t	132	135
	用水 m³/t	15	15
O U T	副産物・排出量 kg/t	165	141
	廃棄物 再資源化量 kg/t	129	100
	処分量 kg/t	36	42
	排水 m³/t	12	13
	CO ₂ kg-CO ₂ /t	213	196
	NOx kg/t	0.17	0.15
	SOx kg/t	0.45	0.44

※原単位とは、製造1t当たりの使用量または、排出量などを表します。

＜CO₂排出量＞



＜副産物・廃棄物の排出量と再資源化率＞



●ハム・ソーセージ事業

対象：日本ハム(株)7工場、静岡日本ハム(株)、長崎日本ハム(株)、東北日本ハム(株)2工場、協同食品(株)、南日本ハム(株)、(株)函館カールレイモン、ベルタスフーズ(株)、(株)鎌倉ハム富岡商会、トーチクハム(株)

●エネルギー・用水の使用量

	2001年度	2001年度(注)	2000年度
A重油 (kl)	19,343	14,233	14,653
灯油 (kl)	532	243	237
都市ガス (千m³)	9	9	0
LPG (t)	1,181	876	916
購入電力 (千kWh)	93,384	71,237	73,097
用水 (千m³)	2,484	1,758	1,832

●大気排出量

	2001年度	2001年度(注)	2000年度
CO ₂ (千t-CO ₂)	93	69	71
NOx (t)	72	54	55
SOx (t)	163	120	123

●副産物、廃棄物の発生及び再資源化状況

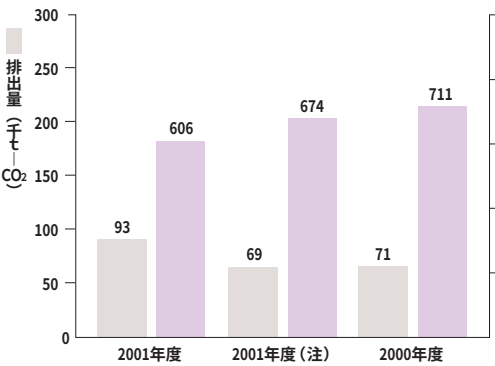
	2001年度			2001年度(注)			2000年度		
	排出量 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)	排出量 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)	排出量 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)
余剰汚泥	6,971	6,844	98.2	4,245	4,179	98.4	4,746	4,677	98.5
廃油	314	312	99.4	241	239	99.3	747	745	99.8
廃プラスチック	2,364	78	3.3	1,858	73	3.9	2,150	1	0.0
動植物性残渣	5,243	4,290	81.8	4,073	3,296	80.9	3,423	2,406	70.3
紙くず・廃段ボール	3,711	3,519	94.8	2,957	2,852	96.5	3,669	3,610	98.4
金属くず	298	273	91.4	178	175	98.3	276	273	99.1
ガラスくず	9	4	41.5	7	4	50.9	17	0	2.7
焼却灰	151	101	66.8	146	101	69.1	235	45	19.1
その他	929	838	90.2	318	287	90.2	320	296	92.3
計	19,989	16,259	81.3	14,022	11,206	79.9	15,582	12,053	77.3

●原単位当たりの推移

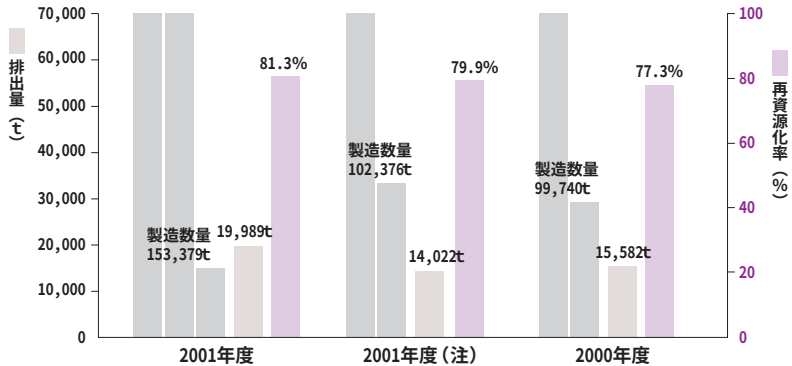
		2001年度	2001年度(注)	2000年度
I N	製造数量 t	153,379	102,376	99,740
	エネルギー 燃料 l/t	141	154	163
	電力 kWh/t	609	696	733
	用水 m³/t	16	17	18
O U T	副産物・排出量 kg/t	130	137	156
	廃棄物 再資源化量 kg/t	106	109	121
	処分量 kg/t	24	28	35
	排水 m³/t	17	18	20
	CO ₂ kg-CO ₂ /t	606	674	711
	NOx kg/t	0.47	0.52	0.55
	SOx kg/t	1.06	1.17	1.23

※原単位とは、製造1t当たりの使用量または、排出量などを表します。

＜CO₂排出量＞



＜副産物・廃棄物の排出量と再資源化率＞



●加工食品事業

対象：日本ハム(株)1工場、日本ハム食品(株)3工場、日本ハム惣菜(株)7工場、日本ドライフーズ(株)、マリンフーズ(株)、日本ビュアフード(株)9工場

●エネルギー・用水の使用量

●表中の2001年度(注)及び2000年度の各実績は、『環境レポート2001 日本ハム 環境への取り組み』に掲載した事業所を対象としています。

		2001年度	2001年度(注)	2000年度
A重油	(kl)	13,385	7,620	8,006
灯油	(kl)	333	286	274
都市ガス	(千m³)	641	641	685
LPG	(t)	14,580	13,962	12,217
購入電力	(千kWh)	165,740	137,780	126,909
用水	(千m³)	3,130	2,257	1,944

●大気排出量

		2001年度	2001年度(注)	2000年度
CO ₂	(千t-CO ₂)	146	117	109
NOx	(t)	120	97	90
SOx	(t)	112	64	67

●副産物、廃棄物の発生及び再資源化状況

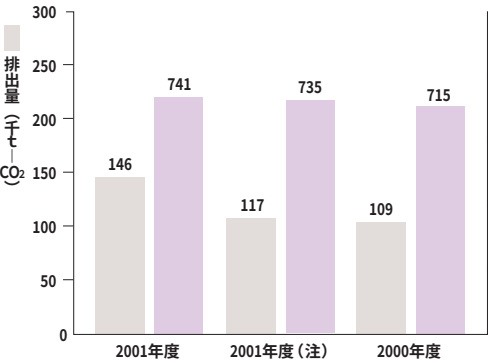
	2001年度			2001年度(注)			2000年度		
	排出量 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)	排出量 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)	排出量 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)
余剰汚泥	6,885	5,507	80.0	4,100	3,371	82.2	4,580	3,324	72.6
廃油	2,542	2,530	99.5	2,534	2,530	99.8	1,896	1,881	99.2
廃プラスチック	1,202	40	3.3	892	40	4.5	533	0	0.0
動植物性残渣	8,306	7,487	90.1	2,938	2,420	82.4	2,709	1,909	70.5
紙くず・廃段ボール	6,507	5,923	91.0	6,042	5,813	96.2	4,672	4,322	92.5
金属くず	890	795	89.3	874	795	91.0	678	670	98.7
ガラスくず	6	4	63.2	6	4	64.2	86	86	99.9
焼却灰	398	0	0.0	398	0	0.0	378	0	0.0
その他	228	20	8.9	215	20	9.4	157	0	0.0
計	26,965	22,306	82.7	17,998	14,993	83.3	15,689	12,191	77.7

●原単位当たりの推移

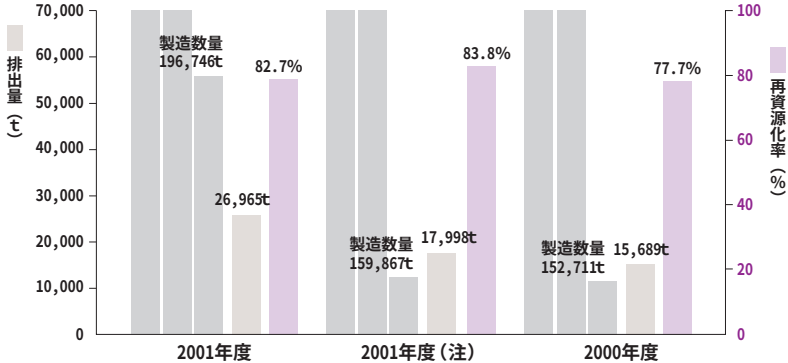
			2001年度	2001年度(注)	2000年度
I N	エネルギー・用水	製造数量	t	196,746	159,867
		燃料	l/t	170	168
		電力	kWh/t	842	862
		用水	m³/t	16	14
O U T	副産物・廃棄物	排出量	kg/t	137	113
		再資源化量	kg/t	113	94
		処分量	kg/t	24	19
		排水	m³/t	10	10
	大気排出	CO ₂	kg-CO ₂ /t	741	735
		NOx	kg/t	0.61	0.61
		SOx	kg/t	0.57	0.57
				0.40	0.44

※原単位とは、製造1t当たりの使用量または、排出量などを表します。

＜CO₂排出量＞



＜副産物・廃棄物の排出量と再資源化率＞



●営業

環境面より見た物質フロー（2001年）

対象：日本ハム(株)97営業所 自動車：1,078台

●エネルギー・用水の使用量

		2001年度
営業所	灯油	(kl) 36
	都市ガス	(千m³) 5
	LPG	(t) 5
	購入電力	(千kWh) 24,138
自動車	用水	(千m³) 25
	軽油	(kl) 3,206
	ガソリン	(kl) 471
	天然ガス	(千m³) 14
	LPG	(kl) 4

●大気排出量

		2001年度
営業所 (自動車を除く)	CO ₂	(千t-CO ₂) 9
	NOx	(t) 7
	SOx	(t) 0
営業所 (自動車を含む)	CO ₂	(千t-CO ₂) 19
	NOx	(t) 70
	SOx	(t) 3

●副産物、廃棄物の発生及び再資源化状況

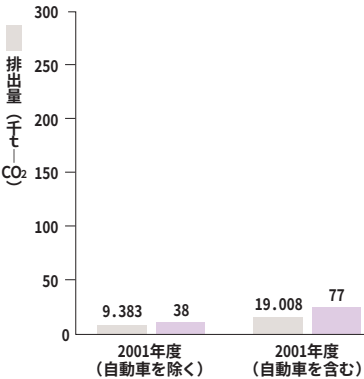
		2001年度
	排出量 (t)	再資源化量 (t)
紙くず・廃段ボール	834	418
その他	828	298
計	1,662	716

●原単位当たりの状況

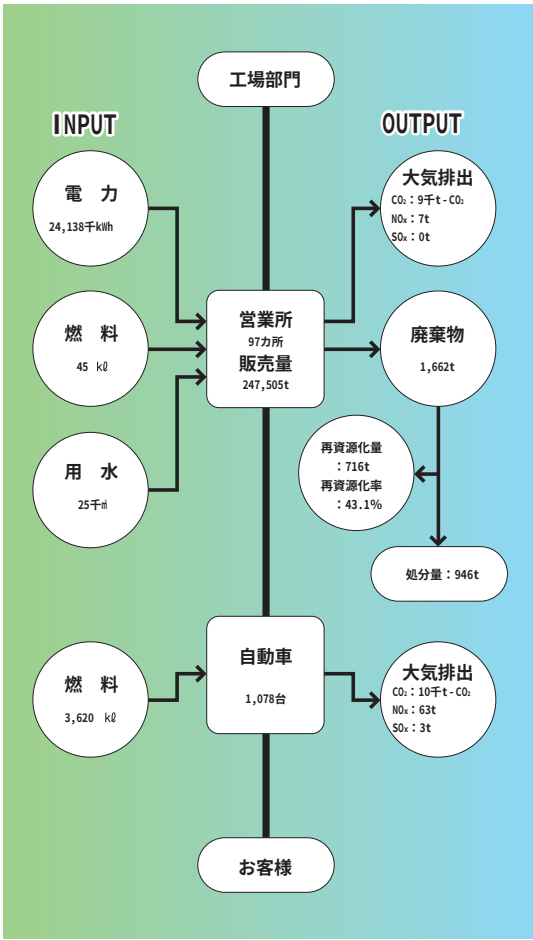
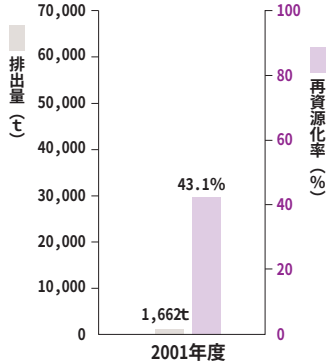
販売量			2001年度
I N	エネルギー・用水	(自動車を除く)	燃料 l/t 0.2
			電力 kWh/t 98
			用水 m³/t 0.1
		(自動車を含む)	燃料 l/t 15
O U T	大気排出		電力 kWh/t 98
			用水 m³/t 0.1
		(自動車を除く)	CO ₂ kg-CO ₂ /t 38
			NOx kg/t 0.03
		(自動車を含む)	SOx kg/t 0.00
			CO ₂ kg-CO ₂ /t 77
			NOx kg/t 0.28
			SOx kg/t 0.01

※原単位とは、販売1t当たりの使用量または、排出量などを表します。

＜CO₂排出量＞



＜副産物・廃棄物の排出量と再資源化率＞



日本ハムグループの積極的なコミュニケーション活動

私たちの暮らしを豊かにしていくものとして、地域の方々のコミュニケーションがあります。これらの要素もまた、地球環境と等しく大切にしていかなければならないものだと考

えています。そのため日本ハムグループでは、環境活動の一環として地域スポーツやお祭り、食文化を通じたコミュニケーション活動にも取り組んでいます。

日本ハムグループの地域コミュニケーション活動

- 長居小学校で、セレッソ大阪の選手が体育の授業をコーチ

セレッソ大阪では、子供たちにもっとサッカーに親しんでもらうことを目的にチームの地元にある長居小学校にコーチ陣を派遣し、体育の授業の中でサッカー教室を開催しました。2001年5月13日から21日の間、1年生から6年生の全学年に90分ずつ授業を行い、初歩的なテクニックから始まり、最後はコーチ対子供たちのミニサッカーゲームを開催、サッカーの魅力を存分に伝えました。



ちびっこFW軍団にコーチするセレッソ選手



楽しい授業が終わってみんなで記念撮影

- 鎌倉ハム工場見学

社会教育の一環として、(株)鎌倉ハム富岡商会では、小学生を対象に毎年工場見学を積極的に受け入れています。伝統的なハムの製造法に触れ、試食をした小学生からの文集や絵が今年も送られてきました。



工場見学で新鮮な印象を受けた小学生たち。文集や絵がたくさん届きます

- 全国の工場で

地域と触れ合うイベントを開催
工場では周辺の地域の人々との交流を大切にし、地域への貢献を行うために、毎年各工場ならではの各種イベントが行われています。



兵庫工場の盆踊り大会の催し



旭川工場の夏祭り



和歌山工場納涼祭

＊日本ハム各工場での2001年度

地域貢献イベント実施概要

- 兵庫工場 盆踊り大会（8月）
盆踊りをはじめ、金魚すくいなど近隣の方々が浴衣掛けて楽しんでおられました。
- 旭川工場 夏のお祭り会（8月）
ビンゴやヨーヨーすくいなど会場はお祭り気分で盛り上がっています。焼き鳥コーナーや各種模擬店は人気の列。民族衣装の出し物にやんやの喝采でした。
- 徳島工場 阿波踊り（8月）
徳島といえば阿波踊り。当日は徳島工場の社員130名が日本ハム連として演舞場に繰り出し、熱い掛け声が続くうち見物客の拍手が鳴り響きました。
- 和歌山工場 納涼祭（8月）
盆踊り第1部と第2部を中心に、チビッコカラオケコンテスト、筋力バトル、大抽選会とイベントは盛りだくさん。ヨーヨー、金魚すくい、射的、輪投げに各種フードコーナーとにぎやか。工場の関係者や近隣の方々を中心に750名が参加し、なごかな一夜を共にすごすことができました。（2002年度は自粛させていただきました）



徳島の阿波踊りに参加

- 食肉加工文化を伝える

『函館カール・レイモン記念コーナー』

(株)函館カール・レイモンでは、本社工場内に「レイモン記念コーナー」を設け、『胃袋の宣教師』と呼ばれ、“ハム・ソーセージづくりのマイスター”カール・レイモンが日本に根付かせた食肉加工文化の足跡を展示しています。函館の地でおよ70年、頑固なまでにドイツ式の製法にこだわった彼のハム・ソーセージづくりの歴史は、まさに日本の食肉加工文化の歴史でもあります。本社工場およびこの展示コーナーでは、地域の人々をはじめ、全国からの見学者を迎え入れています。



往時の道具の展示も見られる

- 地域で開催された海岸清掃活動にボランティア参加

日本ホワイトファーム(株)東北事業所では、2002年4月20日に行われた『むつ湾東海岸美浜推進DAY』に多くの従業員が参加し、海岸の清掃活動を行いました。この清掃活動は、地域の官民が一体となって結成された『はまなす美化協議会』がボランティアを募って実施したもので、県内各地からこの呼びかけに賛同し約1,500名ものボランティアの方が清掃作業に参加、作業が終わった海岸線は、美浜本来の白い砂浜が続くきれいな砂浜に戻りました。

- おいしく学べる ソーセージ手づくり体験『下館工房』

地域の方にハム・ソーセージの食文化をもっと身近に感じていただくことを目的に、日本ハム茨城工場に併設してソーセージ手づくり体験工房として『下館工房』を2002年7月に開設しました。ここでは、本格的なソーセージのつくり方を2時間かけてじっくりと体験することができます。ハーブや香辛料を選んで、オリジナルなウインナーソーセージづくりが楽しく学べると、地域の方を中心に好評を得ています。



ウインナーソーセージづくりが体験できる下館工房



むつ湾東海岸美浜の清掃活動に参加

今、生活の質（クオリティ・オブ・ライフ＝QOL）が注目を浴びています。当グループの企業メッセージ「幸せな食創り」は、このQOLを高めるお手伝いをしていくことにつながり

ます。日本ハムグループでは、環境保全活動とともに、さまざまなスポーツコミュニケーション活動を通じて楽しみを提供していきたいと考えています。

日本ハムグループのスポーツコミュニケーション活動

●『ユニセフカップ2001西宮国際ハーフマラソン』をサポート

この大会は、アフリカ児童医療救済のチャリティーレースとして1986年にスタートしたもので、日本一のチャリティーマラソンとして知られています。日本ハムでは、この大会以外にも『芦屋国際ファン』『尼崎シティ国際マラソン』『神戸バレンタイン・ラブラン』のユニセフチャリティーレースをサポートしています。



さわやかな汗を流す参加者

●関東学童軟式野球新人大会

千葉県鎌ヶ谷市の『日本ハムファイターズタウン』では、関東軟式野球連盟連合会とともに日本ハムが主催する第3回関東学童軟式野球新人大会『日本ハム旗』が開催されました。当大会は、第1回から日本ハム各営業所が大会運営のサポートを行っています。1都7県で行われた予選には195チームが参加。11月24日、25日の決勝大会には各都県を勝ち抜いた8チームが熱戦を繰り広げ、山梨県の船津少年野球団が優勝しました。



●和歌山県和歌浦で

日本初のジャズマラソンを協賛
ジャズマラソンは、マラソンと音楽を融合させた新しいスタイルのマラソン大会です。2001年10月28日に、日本初の『JAZZマラソンin和歌浦』が開催され、日本ハムは協賛企業として参加しました。当日は、約4,300人も参加者が集まり、ジャズ演奏をバックに海岸ランを楽しんでいただきました。



ジャズの演奏を背にスタート！



(上) 子供たちの元気あるプレー
(左) ご家族で熱の入った応援



小学4年生から6年生まで男女混合でたすきをつなぐ

●NHKチャリティーゴルフ大会

2001年11月13日に、兵庫県の関西ゴルフクラブで日本ハムが特別協賛している『2001 NHKチャリティープロアマゴルフ大会』が開催されました。この大会は14回目を迎え、当日集められ



チャリティーレッスンで楽しい1日を

たチャリティー基金は、NHK厚生文化事業団を通じて、さまざまな福祉活動に役立てられ、回を重ねるごとにチャリティーの輪が広がりを見せています。

●第15回千里浜ちびっこ駅伝

日本ハムグループでは、多くの子どもたちがスポーツに触れることのできるイベントを積極的にサポートしています。当グループが協力している小学生の駅伝大会『千里浜ちびっこ駅伝大会』が2002年5月12日に開催されました。この大会は波が打ち寄せる砂浜を、たすきを繋ぎながら走る大会で、今回で15回目の開催となります。当日は96チームが参加し熱いレース展開となりました。参加者からは、友情や頑張ることの素晴らしさ、環境への心配りまで多くのことが学べ、思い出に残る大会になったとの感想をいただいています。

●関西最大規模のフットサル大会2001年7月に大阪南津守さくら公園で『セレッソ大阪杯フットサルトーナメント』が開催されました。この大会は、2002年のワールドカップ開催を記念して1997年からスタートしたもので、日本ハムは、特別協賛企業として本大会を初回から支援しています。



大阪南津守でのフットサルトーナメント

●家族と一緒に

C・W・ニコルさんと遊ぼう！

日本ハムは、2001年10月21日に生活共同組合コープこうべ様と大阪北生活共同組合様とともに『コープ虹つ子・ふれあい満腹ウォーク』を開催しました。このイベントは、六甲山でのハイキングや野外バーベキューを通して、家族の触れ合いと、自然への親しみを深めていただくことを目的としたものです。



家族一緒に森林浴を楽しみながらウォーキング

●親子で参加する『ニッポンハム・サッカーフェスティバル』開催

日本ハムでは、親子で楽しめるスポーツイベント『ニッポンハム・サッカーフェスティバル』を開催しています。
●2001年7月1日セレッソ大阪グラウンド（大阪市舞州）で開催。約1,200人も親子に参加をいただきました。
●2001年9月16日南津守さくら公園内スポーツ広場（大阪市）で開催。子ども約550人、大人約340人に参加をいただきました。
●2001年11月18日セレッソ大阪グラウンド（大阪市舞州）で開催。子ども約600人、大人約500人に参加をいただきました。



子どもたちをコーチするセレッソの選手

●ニッポンハムカップ

FUNKY SOCCER FESTA 2001

2001年3月に、大阪・舞洲スポーツアイランド内舞州アリーナで、5人制のミニサッカー・フットサル大会『ニッポンハムカップ FUNKY SOCCER FESTA 2001』が開催されました。この大会はFM802のリスナーから参加チームを募って行われたもので、男性のみの「エキスパートクラス」に60チームが参加、男女混合の「フレンドリークラス」に16チームが参加していただきました。日本ハムはこの大会に、特別協賛企業として参画しています。



男性のみのエキスパートクラス



男女混合のフレンドリークラス

日本ハムグループの環境活動年表

国内	日本ハム	社会情勢	
1996年（平成8年）	●ISO14001発効	●病原性大腸菌O-157による集団食中毒が各地で発生	
1997年（平成9年）	●第3回気候変動枠組条約締結国会議（京都）＝COP3（京都） ●容器包装リサイクル法による回収・再利用開始	●ダイアナ元皇太子妃がパリで自動車事故死 ●大規模エルニーニョ発生、世界各地で異常気象 ●消費税5%課税実施	
1998年（平成10年）	●「大気汚染防止法施行規則の一部を改正する総理府令」公布 ●「土壌汚染に係る環境基準の一部を改正する件」告示 ●「作物残留及び水質汚濁に係る農薬登録保留基準を改正する件」告示 ●「海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律の一部を改正する法律」公布 ●「平成10年度ダイオキシン排出抑制対策検討会」設置 ●「地球温暖化対策の推進に関する法律」公布 ●「悪臭防止法施行規則等の一部改正」 ●「工業用水法施行規則の一部を	●環境室設置 ●環境宣言 ●食肉事業本部安全環境室設置 ●環境憲章制定 ●環境対策委員会設置 ●グリーン購入ネットワークに加盟し、グリーン購入開始 ●本社事務室環境対策委員会設置 ●・自然・文化創造会議／工場（CC C）アイドリングコントロールキャンペーン参加 ●・LANを利用した環境データベース「環境フォーラム」開設 ●・天然ガス車（CNG車）初導入（浪速営業所）	●冬季オリンピック長野大会開催 ●明石海峡大橋開通 ●和歌山市でカレー毒物混入事件発生 ●第一次小淵内閣成立 ●北朝鮮のミサイル・テポドン1号が三陸沖に着弾 ●江沢民主席が中国国家元首として初来日 ●米下院がクリントン大統領の弾劾訴訟を採決
1999年（平成11年）	●「特定化学物質の環境への排出量の改善促進に関する法律（PRTR法）」公布 ●「ダイオキシン類対策特別措置法」公布	●倉本聰氏社内講演会実施 ●中央研究所「ゼロエミッション構築事業」実証実験 ●CNG低公害車導入（板橋営業所）・LPG車初導入（名古屋西営業所） ●廃棄物管理規程策定 ●グリーンマーク事業に参加・化粧箱にグリーンマーク使用開始 ●小野工場が業界初のISO14001認証取得	●欧州単一通貨（ユーロ）参加11か国で発足 ●ニューヨーク株式、ダウ平均株価史上最高の一万ドル突破 ●トキの人工孵化に初めて成功 ●トルコ西部で大地震発生、死者1万7000以上 ●東海村で臨界事故発生 ●パキスタンで軍事クーデター ●マカオ、中国に返還 ●パナマ運河返還
2000年（平成12年）	●「ダイオキシン類対策特別措置法」施行 ●「容器包装リサイクル法」全面施行 ●「環境会計ガイドライン」環境庁公表 ●「環境報告書ガイドライン」環境庁公表 ●「循環型社会形成推進基本法」公布 ●「環境基本計画」更新	●焼却炉使用ガイドライン発行 ●中期経営計画で環境への取り組みを盛り込む ●環境会計会議スタート ●日本ハムグループ容器包装識別マークガイドライン策定 ●生産小委員会設置 ●LANを利用した環境データベースリニューアル「ECO ECO 21」がスタート ●日本ハムホームページに環境活動コーナーを新設	●北海道・有珠山が噴火 ●介護保険制度スタート ●第一次森内閣成立 ●ブーチン氏露大統領就任 ●小淵元首相死去 ●仏コンコルド機墜落炎上 ●シドニーオリンピック開催 ●BSデジタル放送開始
2001年（平成13年）	●「環境省」発足 ●「ダイオキシン類対策特別措置法」排出規制 ●「食品廃棄物リサイクル法」施行 ●「廃棄物処理法」改正・処分地確認 ●「グリーン購入法」施行 ●「PRTR法」施行、対象物質の調査義務 ●「家電リサイクル法」施行 ●「自動車Nox・PM法」施行	●容器包装識別マーク開始 ●東京オフィス環境対策委員会設立 ●環境会計試行開始 ハムソーセージ事業本部にて ●「環境レポート2001 日本ハム環境への取り組み」発行 ●茨城工場ISO14001認証取得 ●兵庫工場ISO14001認証取得 ●和歌山工場ISO14001認証取得	●米大統領にブッシュ氏就任 ●1府12省庁体制スタート ●ハワイで実習船「えひめ丸」が米原潜と衝突沈没 ●小泉内閣成立 ●米、同時多発テロ事件発生 ●アフガニスタン報復攻撃タリバン崩壊 ●失業率5%台突破 ●イチロー大リーグで活躍 ●敬宮愛子さま誕生
2002年（平成14年）	●「土壌汚染対策法」公布 ●「自動車リサイクル法」公布 ●環境開発サミット・ヨハネスブルグで開催 ●地球温暖化対策推進大綱 ●京都議定書批准 ●欧州で大洪水	●旭川工場ISO14001認証取得 ●長崎日本ハムISO14001認証取得 ●「違法経営の確立に向けた取り組み」スタート ●東北日本ハム本社工場ISO14001認証取得	●ヨハネスブルグサミット開催 ●欧州、中国、韓国で大洪水 ●成田国際空港第二滑走路使用開始 ●学校完全週休二日制度開始 ●FIFAワールドカップサッカー、日韓同時開催 ●住民基本台帳ネットワークシステム スタート

環境レポート2001について

多くの方々から貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

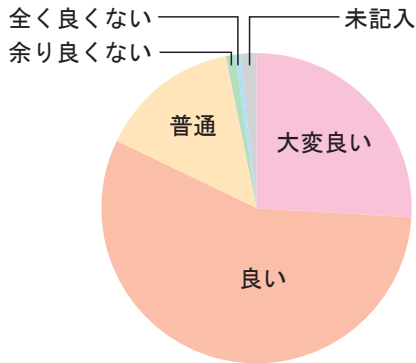
日本ハムグループとしてはじめての環境報告書となった『環境レポート2001』に関して、数多くの方よりアンケートを通じてさまざまなご意見、ご感想が

寄せられました。末筆ではありますが、この場をお借りしてご協力に感謝いたします。さて、いただいたアンケートの集計結

果を下記に集計させていただきました。また、今回の『環境レポート2002』に反映させていただいたご意見やご感想も紹介いたします。

アンケート集計

大変良い	108	26.0%
良い	234	56.3%
普通	61	14.7%
余り良くない	4	1.0%
全く良くない	2	0.5%
未記入	7	1.7%
アンケート合計	416	



● 立派過ぎる感じがします。部数も多くつくりすぎでは？もっとITを活用した方がよいのではないのでしょうか。今回は、レポートの発行と同時にホームページにも掲載し、印刷部数の削減を図りました。ITの利用は、今後の課題として受け止めております。ITをもっと有効に利用できるように工夫をしてまいりたいと思います。

参考にさせて頂いたご意見

● 理解しにくい用語が多い
なるべく専門用語には、解説を付記するようにしました。
● 「安心・安全、健康な食品創り」への
取り組みをもっと紹介して欲しい。
安心・安全への取り組みについての情

報も掲載させていただきました。
この他、寄せられたアンケートでは、食品の安全性についての関心の高さを感じました。食品企業の環境への取り組みは、食品の安全性を抜きにしては成り立たないという思いを強く致しまして、今回の内容になっています。

今回の「環境レポート2002」のアンケートにも、ぜひご協力ください。

当『環境レポート2002』を最後までお読みいただき、ありがとうございます。巻末に今回の内容に関するアンケート用紙を挟み込ませていただきましたの

で、読後のご感想・ご意見など、ぜひお聞かせください。次年度の『環境レポート2003』編集の貴重なご意見として、参考にさせていただきます。

アンケート用紙は、日本ハム環境室までファクスか郵送でお届けください。

● ホームページで環境情報の提供
日本ハムのインターネット・ホームページ内に、日本ハムグループ全体の環境活動を紹介したページを設け、環境目標、これまでの取り組みのトピックスなどを紹介しています。ぜひ、本環境レポート



ホームページURL
<http://www.nipponham.co.jp/>